

令和5年度「群馬の道徳教育 56集」

A 研究員の研究

1 指導内容の工夫について

①道徳的な価値理解を基に、考え、議論する道徳授業を目指して

——生徒の実態把握と職員の共通理解を通して——

前橋市立第一中学校

高橋 愛夢

②自分の思いや考えを他者に伝えられる生徒の育成

——ICTの活用や発問の工夫を通して——

桐生市立桜木中学校

長谷川 裕香

③自分の考えを持ち、他社に伝えることができる生徒の育成

——既存のワークシートや生活班での話し合いの見直しを通して——

太田市立毛里田中学校

西村 雄希

④よりよく生きようとする生徒を育成する道徳教育

——考え、議論する道徳の授業づくりを通して——

みどり市立大間々中学校

藤井 啓太

⑤多面的・総合的な生徒理解に基づく道徳教育

——ローテーション授業の実践を通して——

板倉町立板倉中学校

岩崎 智明

⑥自我関与を意識し、自分との関わりで考える道徳教育の充実

——発問と話し合いの場の設定の工夫を通して——

沼田市立沼田南中学校

小嶋 博子

⑦自己の生き方を考え、他者とともによりよく生きようとする生徒の育成

——共働的な学びを充実させるための指導の工夫を通して——

川場村立川場中学校

長山 浩也

⑧自ら学び、自己の生き方を考え、他者とともによりよく生きようとする生徒の育成

——「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指して——

東吾妻町立東吾妻中学校

宮崎 瞳

⑨学ぶ意欲を持ち心豊かなたくましい生徒の育成

——自身を振り返り、他者と交流し、担任による個人内評価を通して——

甘楽町立甘楽中学校

菊地 奈津美

⑩自己指導能力を高め、自他を大切にする生徒の育成

——家庭、地域と一体となった道徳科教育の推進を通して——

藤岡市立北中学校

新井 敏弘

2 ICT の効果的な活用について

⑪自分の考えを持ちながら他者を尊重し共生しようとする生徒の育成

——ICT を効果的に活用した意見の共有——

玉村町立玉村中学校

齋藤 晃一

⑫道徳教育における学びを深める指導の工夫

——1人1台端末の効果的な活用を通じて——

渋川市立赤城南中学校

市川 孝純

⑬タブレット端末を活用した効果的な授業実践

——ICT を活用する意味のある道徳授業——

館林市立第四中学校

飯塚 淳子

⑭「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業改革

——特別の教科 道徳の指導における ICT の活用を通して——

高崎市立箕郷中学校

田島 尚

B 地区別実践

高崎市の実践

C 第57回 全日本中学校道徳教育研究大会 北海道函館大会

第5分科会

テーマ 「今日的な課題・地域性等を生かした道徳教育」

前橋市立大胡中学校 教諭 瀬戸山 千穂

道徳的な価値理解を基に、考え・議論する道徳授業を目指して

—生徒の実態把握と職員の共通理解を通して—

前橋市立第一中学校

高橋 愛夢

＜研究のポイントはこれだ！＞

Google フォームを活用して生徒・教師の道徳に対する実態調査

+

校内研修を活用して先生の道徳に対しての共通理解



校内研修にて3つの研究チームを編成

- (a) 学びや成長を生徒が実感でき、学んだことを生活に生かす展開の工夫
- (b) 自己を見つめ、自分との関わりで考える発問の工夫
- (c) 物事を広い視野から多面的・多角的に考え深める道徳の授業の工夫



生徒・教師の実態を生かしつつ、考え、議論する道徳の実現
自律した一人の人間として、よりよい生き方を考える生徒の育成

1 研究主題設定の理由

道徳が教科化されてしばらく経過し、教科書を活用しての道徳授業や道徳の評価を行うことも浸透してきた。また、本校では道徳において3年間の前橋市教科別研究指定校となり、本年は初年度として研究を始めた。そこで、今年度からの校内研修を道徳の授業づくりに焦点化して行うこととした。研修部では、生徒が道徳の授業に対してどのように考えているのかを Google フォームにて実態調査し、その実態に合わせて指導方法を検討していくべきとの結論に至った。さらに、教師側にも道徳の授業に対してのアンケートを実施したり、ワールドカフェ方式で道徳に対する協議を実施したりして、考え・議論する道徳に向けての困り感などを調査した。その後、講師を招聘して研修会を適宜行うこととし、授業力向上を図った。

2 研究のねらい

Google フォームを活用して生徒・教師の道徳に対する実態調査と校内研修を活用して教師の道徳に対しての共通理解を通して、生徒・教師の実態を生かしつつ、考え、議論する道徳の実現と自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成を図る。

3 研究の内容

- (1) Google フォームを活用して生徒・教師の道徳に対する実態調査
- (2) 校内研修を活用して先生の道徳に対しての共通理解
- (3) 生徒・教師の実態を生かし、考え・議論する道徳の実現に向けた授業改善

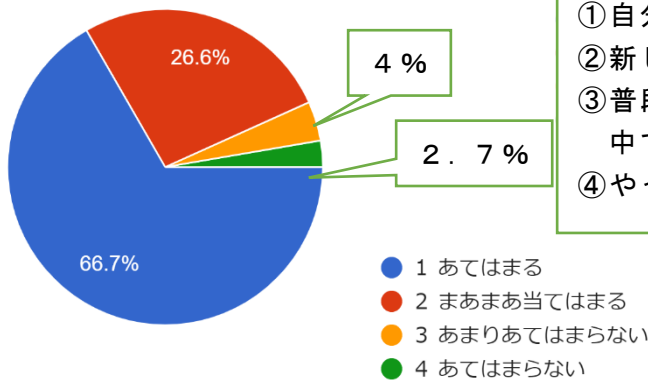
4 実践の概要

(1) ー1 Google フォームを活用し、生徒の道徳に対する実態調査

学習指導要領「特別の教科道徳」の第2章第2節 道徳科の目標（「第3章 特別の教科道徳」の「第1 目標」） 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。との記載がある。上記の下線部は、考え、議論する道徳の実現に向けた授業改善に向けての4つの学習活動を示している。この4つの学習活動などについて、生徒に想起させ、4件法で調査した。

各設問と生徒アンケート結果

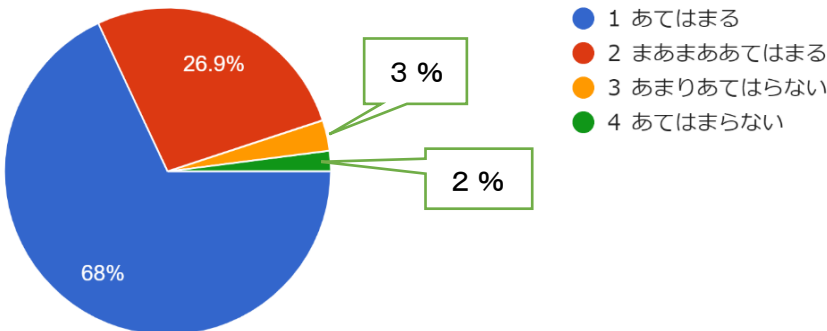
設問①道徳の授業は大切だと思うか



主な理由

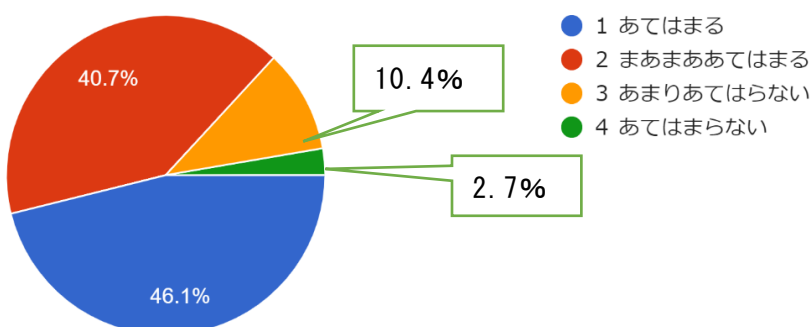
- ①自分と相手の意見を共有できる機会だから
- ②新しい考えを知れるから
- ③普段の授業ではわからないことや生活していく中で気づけないことを学ぶことができるから
- ④やった内容があまり記憶に残らないから。

②道徳の授業では、人間としてよりよく生きることについて学べると思いますか
(例えば、生徒が親や祖父母を尊敬し、愛情をもって接することが大切である。)



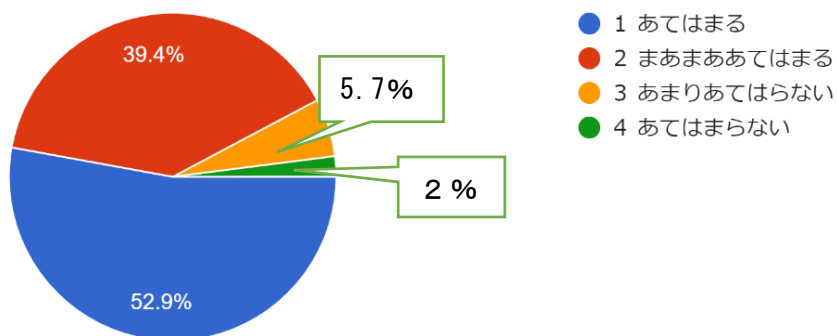
③道徳の授業では、人間としてよりよく生きるために大切であっても、なかなか実現できないことがあることについて学べると思いますか

(例えば、生徒が親や祖父母を尊敬し、愛情をもって接することが大切であるが、反抗的になってしまうことがある)

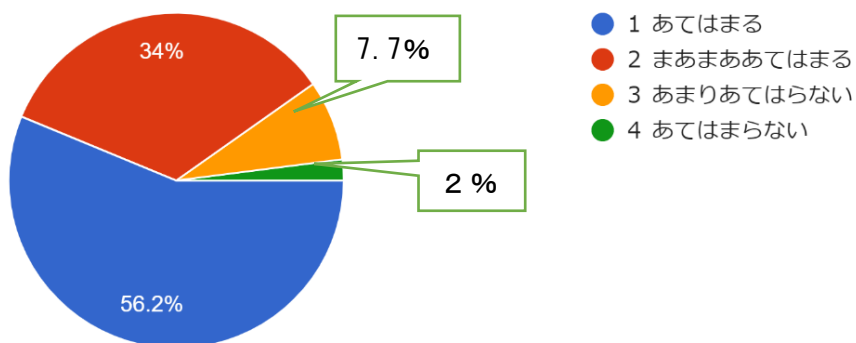


④道徳の授業では、人間としてよりよく生きるために大切であっても、なかなか実現できないことがある理由はさまざまであることについて学べると思いますか

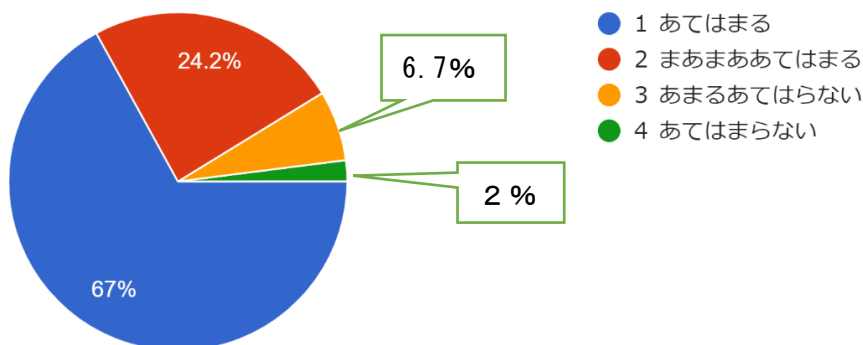
(例えば、生徒が親や祖父母を尊敬し、愛情をもって接することが大切であるが、反抗的になってしまうのには理由がさまざまである)



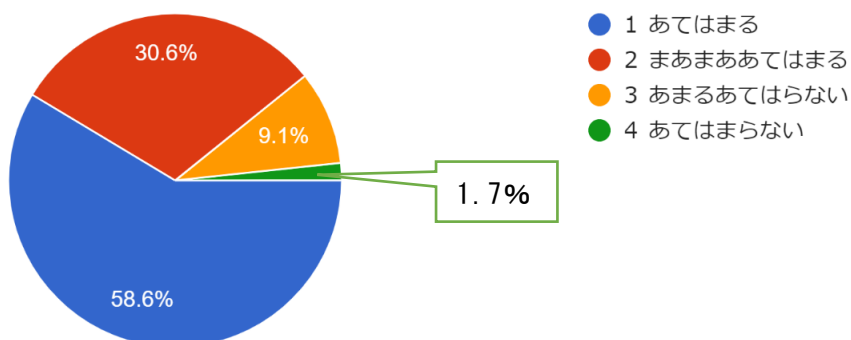
⑤道徳の授業で教科書の資料を読んだときは、自分だったらどうするか考えるようにしているか



⑥道徳の授業で、友達の意見を聞いて、自分の考えが広がったり、深まったりするか



⑦道徳の授業では、これからどのようによりよく生きていくか考えることができる



(3) 生徒・教師の実態を生かしての考え、議論する道徳の実現に向けた授業改善

(1) ー1の生徒へのアンケート設問③から、道徳的価値観の多様性を示す「他者理解」ととらえさせることが不十分であることが分かった。これは、主発問に対する補助発問が十分に行われておらず、表面的な部分でしか話し合いがなされていないことや生徒の意見が十分に出されていないことが原因と考察した。また、アンケート設問⑧から、道徳の授業で学んだことを日常生活に役立てていない生徒が多いことが分かった。これは、道徳の授業が資料の中の世界で完結していることに起因し、授業のめあて達成のために資料から離れ、生徒自身の問題として改めて考えさせる活動が必要であると考察した。

また、(2)の教師アンケートから、本音を引き出す発問と揺さぶり発問の工夫によって、「考え・議論する道徳」を実現できると考える教師が多いことが分かった。以上から研修部では次の3点の授業改善方法を考えて実践した。

(a) 学びや成長を生徒が実感でき、学んだことを生活に生かす展開の工夫

導入時に問題意識を持たせて学習のめあてを設定し、終末で学習のめあてに戻ってもらう一度考える活動を設定するようなワークシートの工夫をした。

アプリで開く ▼

道徳 振り返りシート 12月13日(木)

題材名 独りを慎む

主題 自制する心

めあて

「自制する心」とはどのような心だろうか？

前	後
<ul style="list-style-type: none">自分の言いたいことばかり思っていることを口にしつら。相手のことを思って我慢する(自分のために)	<ul style="list-style-type: none">自分で考え、大切なことをやりぬく心大切なことを見極めて、判断する心

「自制する心を持つと、あなたの生活はどう変わっていきだろうか？」

- 心の中からきれいになれる
- 良い悪いの判断が出来るようになって、他の人にも広げられようになり

また、振り返りでは、今までの自分の考えと比べたり、これからの生活に生かせたりすることはないかななどの視点を与えて記述させた。

生徒の記述例：主題名 規則の役割 (C-10 順法精神、公德心) 「明日を生きる 日本文教出版 鳥取砂丘より」

今までは法や規則は、私をしばるものというイメージがあったが授業を通して、法や規則はみんながよりよく生きるためにあるのだと分かった。これからは、法や決まりを今まで以上に守って生活していきたい。

(b) 自己を見つめ、自分との関わりで考える発問の工夫

これまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせて考えられる発問の工夫や役割演技などによって、道徳的な場面を、実感を伴って理解できるようにした。また、範読前には状況を説明するとともに、場面絵を提示するなどして物語の主人公を明確にした。さらに範読後、教科書をしまわせることで読み取りの道徳にならないようにした。

(c) 物事を広い視野から多面的・多角的に考え深める道徳の授業の工夫

ICTを活用して、生徒全員の意見をリアルタイムかつ瞬時に把握できるようにした。また、思考ツールや心情円などを活用し、対話しやすくなるための手立てを講じた。

5 研究の成果と課題 (授業実践例)

主題名 公平とは (C-11 公正、公平、社会正義) 「明日を生きる 日本文教出版 公平と不公平より」

A:お年玉の金額が年齢で違うこと

B:コンサート会場の入場行列で、車いすの人は並ばないで入場すること

C:字が上手だからと言って、班での話し合いのまとめを書かせること

の3つの事例について話し合い活動を行った。

(a) 学びや成長を生徒が実感でき、学んだことを生活に生かす展開の工夫

成果

導入時には、公平か不公平かを判断するとき大切にしなければならないことは何だろうという課題を設定し、終末で同じ発問をして道徳的な価値に迫った。振り返りの記述から生徒は最初に考えた自分の考えと比べて変容を実感していた。

(b) 自己を見つめ、自分との関わりで考える発問の工夫

成果

Google ジャムボードを活用して、3つの事例に対して公平だと思うか、不公平だと思うか、どちらともいえないかを個人で意見表明させた。ジャムボードを活用したことで、一人ひとりがしっかり考え自分の意見を記述できていた。

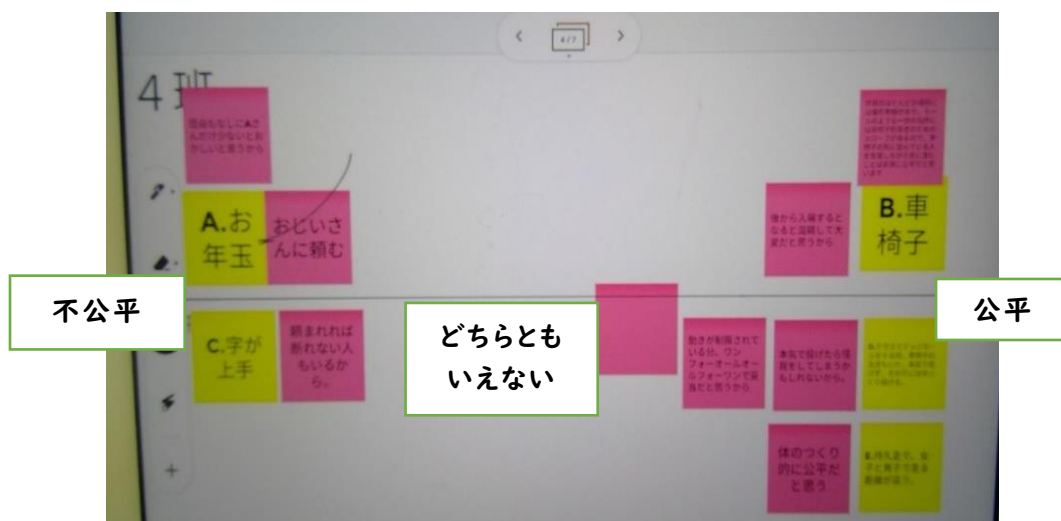


ジャムボードに記入
しているようす

課題

ICTを活用しているのに、板書が少なくなり、一目で授業の流れが分かるような構造的な板書ではなくなってしまう。

(c) 物事を広い視野から多面的・多角的に考え深める道徳の授業の工夫



成果

Google ジャムボードを活用して、各個人で意見表明させた後に班活動を行い、意見交流を行った。タブレット端末を活用したことで教師側も全員の意見がリアルタイムに把握でき、どの生徒がどの意見を持っているかを生徒同士も見ることができて、話し合い活動が活性化できた。

課題

班で3つの事例について公平なのか不公平なのか話し合わせたことで意見の活性化をねらったが、少数派の意見が多数決によって反映されない班が見られた。少数派の意見をどのように全体に共有・反映させるかについて検討が必要である。

6 参考文献

【参考資料】

- ・ 自己を見つめ、これから DL の生き方について考えを深める児童を育てる道徳科学習指導 酒井梢 http://gimu.fku.ed.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=136
- ・ 群馬県総合教育センター 児童の道徳的判断力を高める指導の工夫－「心のものさし」を軸に据えた連続型道徳学習を通して－野中 友華 <https://center.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/5334>
- ・ 栃木県教育委員会「考え、議論する道徳」の授業づくり（中学校段階） https://doutoku.mext.go.jp/pdf/guidedocument_178.pdf
- ・ 平成28年度第15回初任者研修 愛知県教育委員会道徳教育総合推進サイト https://doutoku.mext.go.jp/pdf/guidedocument_176.pdf
- ・ 文部科学省「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告） https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf
- ・ 宮城県総合教育センター どうとくサポートブック https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/doutoku/sbook/img/11_tamentakaku.pdf
- ・ はばたく群馬の指導プランⅡ 群馬県教育委員会

自分の思いや考えを他者に伝えられる生徒の育成

—ICTの活用や発問の工夫を通して—

桐生市立桜木中学校 長谷川 裕香

《 研究のポイントはこれだ! 》

以下の生徒の実態をふまえて・・・

- 道徳の授業において、自分事に置き換えて物事を考える力が弱く、自分の意見や考えを深められない生徒が多い。
- 友達と意見を一致させようとして、本来思っていることを自由に言えない雰囲気がある。
- 自分の気持ちや考えを発表することが苦手で、話し合いが深まりづらい。



〈ICTを活用〉させ、さらに〈発問を工夫〉しながら
自分の思いや考えを他者に伝えられる生徒の育成

1. 研究主題設定の理由

本校の生徒は、まじめに授業を受けることができる。しかし、対話活動や意見交流の時間となると活発さに欠け、「自分の思いを堂々と発表することができない」「仲良しの友達がグループ内にいないと発言できない」という消極的な姿勢が多々見られる。これらの生徒は意見や考えが決してないのではなく、自分の意見を他者に伝えることに抵抗を持っているのである。自分の意見に自信を持てなかったり、他者との違いに恐れを持っていたりするようである。さらに、授業後の振り返りに単なる感想を書いて終わりになっている生徒が多く、自分事に捉えて考えられている生徒が少ない。

そこで、ICTのチャット機能を用いて自分の意見を発信することへのハードルを下げたり、生徒自身が「話したくなる」ような発問を工夫したりしながら、自分の思いや考えを他者に伝えようとする気持ちを育ませることができると考え、本主題を設定した。

2. 研究のねらい

仲間と交流する場面や教師からの発問を工夫することで、考えを深めさせ、自分の思いや考えを他者に伝えられる生徒を育成する。

3. 研究の内容

(1) ICTの活用（意見交流させるための手段としての活用）

- ・ワークシートに意見を書いてばかりではなく、オクリンクを用いて、自分の思いを述べる場面を作る。（中心発問のみオクリンクで共有する）その各自の思いをもとに、交流させる。

(2) 話しやすい土壌作り（話したくなる発問の工夫や話し方の形態の工夫）

- ・生徒の実態に即して、自分の事として考えられるような発問をする。
- ・答えが一つになるような質問ばかりするのではなく、答えが多様になるような自由度のある発問をし、何を言っても間違いではない、という雰囲気を作る。
- ・多面的・多角的に考えられるように、ペアやグループでの話し合いの時間を多く確保し、意見の違いについて深く考えさせるようにする。

4. 実践の内容

(1) 主題名 「自分の生活を見直して」（内容項目 A-(2) 節度・節制）

(2) 資料名 「スマホに夢中」（「新しい道徳2」東京書籍）

(3) 資料について

本題材は、主人公の奈美恵が友達とのメッセージのやりとりを優先し、周囲に注意をすることもなくスマートフォンに夢中になってしまう。弟や母の忠告があつたにもかかわらず、自らの欲望を抑えて、事故を統制することができずに、スマートフォンの操作に夢中になった結果、駅のホームに続く階段を踏み外してしまう。この出来事の結末は書かれていないが、事故をきっかけにして、奈美恵は自らの行いを振り返り、安全で調和のとれた生活について考えていくきっかけになるであろう。

(4) ねらい

スマートフォンに夢中になってしまい、事故を起こしてしまった主人公の行動について考えることを通して、心身の健康と望ましい生活習慣との関わりを理解し、進んで安全で調和のある生活をしようとする態度を育てる。

(5) 準備 教科書、ワークシート、ホワイトボード、タブレット端末

(6) 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 (○基本発問、◎中心発問)	時間	支援及び留意点
導入	1. 本時の学習テーマをつかむ	○「分かっているのにやめられない。やめた方がいいのにやめられない」ことはあるかな？ ○「歩きスマホ」についてどう思うか？ ○「歩きスマホ」をしたことがあるか？	6分	話しやすい雰囲気を作る。 英語の授業でも歩きスマホを扱ったので、そのことにも触れる。
展開	2. 範読する。 3. あらすじを確認する。 4. 奈美恵の <u>事故前</u> のスマホの使い方について個人で考える。	○ <u>事故が起きる前までは</u> 、奈美恵はスマホの使い方についてどのように、考えていたのだろう？ ↓	38分	

	<p>「なぜそんなにスマホに夢中になるのか」についてグループで意見交流する。</p> <p>5. <u>事故後</u>の奈美恵の気持ちについて個人で考える。</p> <p>「スマホの使用について気持ちの変化はあるだろうか」 個人で考えたあと、グループで発表し合う。</p> <p>6. この物語の結末をグループで考え、ホワイトボードに書く。</p> <p>6. 奈美恵の行動を踏まえて、自分自身の生活について考える。</p>	<p>危険と分かっているけども使い方を変えないのはなぜ？なぜそんなに夢中に？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラインの返信を早くしないと相手に悪いから。 ・素早く返信しないと自分の立場が悪くなるから。 ・とにかくスマホを触っていないと落ち着かないから。 <p>◎階段の下に転落した奈美恵は、スマホの使い方についてどのように考えただろう？ 事故前と事故後でどんな気持ちの変化があるだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの言う通りにすればよかった。 ・歩きスマホはもうしない。 ・友達にも迷惑かけちゃったな。 ・事故後すぐは、気をつけて過ごすけど、そんな気持ちは長く続かないだろうな。 <p>○「結末は書かれていないけど、どんな結末だろう。奈美恵はどのように過ごしていくのだろうか？」 ↑歩きスマホ以外に気をつけることはあるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホばかり触らず、普段の会話を大事にする。 <p>○安全で調和のとれた生活を送るために、日頃心がけていることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話をしっかり聞くようにしている。 ・公共の場での振る舞いに気をつけている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをタブレットに記入させ、オクリンクで送信。その際に、気持ちに大きな変化があれば。赤のシートに記入し、気持ちの変化があまり見られず、今まで通りスマホを使うとなれば、水色のシートに記入させる。
<p>終末</p>	<p>7. 自分自身について振り返り、本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分との関わりで考えて、今までの自分の経験と照らし合わせながら、感じたことを書いてみましょう。 	<p>6分</p>	<p>本時の学習を通して、気づき、感じたことを今後の生活</p>

				に活かせるようにする。
--	--	--	--	-------------

6. 研究の成果と今後の課題

○成果

- ・今まで道徳の授業でタブレットを用いて、意見や考えを提示させたことがなかったが、今回行ってみて、紙に書く以上に自分の気持ちを表現してくれていたように感じる。
- ・生徒全員の意見をTVに映すことで、他者の意見が可視化できるので、様々な意見に触れることができた。さらに、自分の考えを深めたり、改善したりするために有効だった。
- ・グループで交流する場面では、本教材が実際に自分たちの私生活で起こりそうな内容だったため、学んだことを今後の生活でどう生かしていけば良いかを考えることができた。

●課題

- ・発問を工夫することが大変難しかった。特に、生徒一人ひとりが、異なる意見や資料の中から様々な考えや生き方に触れることを通して、自分の生き方を見つめ直せるような発問の工夫が難しかった。
- ・グループでの話し合いの場面においては、解決することや結論の一致になりがちだった。生徒自身も意見が一致することによって安心して、さらに話し合いを進められる雰囲気があったので、何を言っても間違いではない、道徳には正解も不正解もない、という雰囲気作りが必要であるとする。

7. 参考文献

- ・「新しい道徳3」東京書籍

自分の考えを持ち、他者に伝えることができる生徒の育成

—既存のワークシートや生活班での話し合いの見直しを通して—

太田市立毛里田中学校 西村 雄希

<研究のポイントはこれだ！>

決まった生徒が「正解を言わされる」授業にしない

主発問に時間を割くための**ワークシート**を意識！ **既存の物を変更!!**

ICT 端末の使用場면을限定！ **資料提示に絞ってみる!!**

決まった**グループ**の見直し！ **話しやすい人からスタート!!**

大きな発問を設定！ **自分で考え、議論しやすく深まる中心発問**を意識!!

1 研究主題設定の理由

自分の意見を持ち、人の意見を聞きたくなる道徳的な課題を追究するべく「考え、議論する道徳」が求められ、本校でも生徒が常に自己の生き方を見つめながら、クラス全員で多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていくことを重視した学習を目指している。しかし、自身や学年の道徳科授業の実態として、「自分事として取ることができない生徒が多い」、「積極的に発言する生徒が少ない」、「いわゆるきれい事になってしまい、本音で意見を言えない生徒が多い」「議論が議論でなく、意見紹介になっている」等が挙げられる。教師の工夫が足りないと言ってしまうとそれまでだが、具体的に改善点を整理した。考えられる原因として、「生徒の実態に対応しきれておらず、指導書の流れに頼りきった指導になっている」、「発問や書く活動が多く、話し合いの時間を十分に確保できていない」、「誘導的な指導になりがちで、オープンエンドを意識した深める授業を展開できていない」等が挙げられる。また、本学年の生徒の実態として、自己肯定感の低い生徒が多いため、道徳の授業内だけにとどまらず、学年・学級経営上も工夫が必要だと学年職員で共通理解されているところである。

そこで、自分の考えを持ち、その考えを他者に伝えることができる生徒の育成を目指して、道徳科授業の改善を図りたいと考えこの研究主題を設定した。本校は、ローテーション授業を採用しており、校内統一のワークシートを数年前から使用している。現状の取り組みを活かしつつ、すぐに工夫・改善・挑戦できるところから取り組みたいと考え、具体的な改善策として以下の「2 研究のねらい」に示す内容に取り組むこととした。

2 研究のねらい

最も重要な主発問での話し合い活動の時間を十分確保するために、既存のワークシートを見直す。また、ICT 活用場면을精選する。主体的・対話的な学びから生徒を深い学びに導くために（生徒が考え、議論しやすくし、様々な意見に触れられるようにするために）、生活班での決まったグループを見直し、中心発問をオープンエンドの大きな発問にする。以上の実践で、自分の考えを持ち、その考えを他者に伝えることができる生徒の育成を図る。

3 研究の内容

- (1) ワークシートの見直しを行うことで、時間的な無駄を省く。
- (2) ICT 端末の使用場面を資料の提示に限定することで、交流の時間を確保する。
- (3) 決まったグループを見直すことで、活発な意見交流や議論を行えるようにする。
- (4) オープンエンドを意識した大きな発問を設定することで、多様な意見を引き出し、新たな考えに触れられるようにする。

4 実践の概要

(1) ワークシートの見直し

これまで、本校のベースとなるワークシートにさらに項目を加え、全ての発問に対して考えを記入させることもあった。しかし、書かなくてもよいであろうことは積極的に省いて、シンプルにした。後に述べるが、発問自体も精査した。また、既存の校内統一ワークシートでよいかも検討した。

校内統一のワークシート(書式)を使っているメリットとして、以下のことが挙げられる。

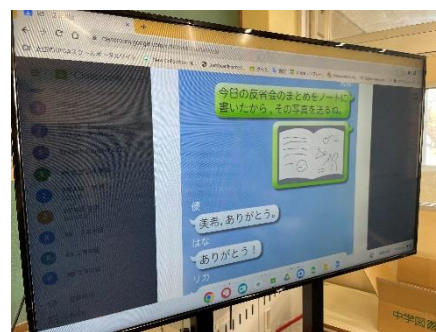
- ①ローテーション授業のため、指導教員によって毎回書式が異なり、生徒が戸惑ってしまうという心配が少ない。(スムーズに取り組める)
- ②学校全体で道徳に取り組んでいるという一体感がある。
- ③学級担任以外も道徳の授業を行うため、不慣れな教員でもワークシートの作成に悩む心配が軽減される。

以上のようなメリットを活かしつつ、必要最低限なものにする。必要最低限なものとは、「主発問における交流時の発言の準備として、自分の考えを整理するためのメモ」と、「生徒が自らの成長が実感でき、教師の評価資料としての振り返り」であると考えている。

↑今回使用したワークシート
(話す時間を確保するため、最小限に)

- ↑校内統一のベースとなるワークシート
(ここからアレンジを加えたり、削除したりする)
- (2) ICT 端末の使用場面を限定

ICT 端末の使用については、クラスの誰一人として残さぬよう、可視化と考えを深めるツールとして使用している。しかしながら、ワークシートと ICT の活用の両方を目一杯やろうとすると、肝心の交流の時間が減ってしまう。(ワークシートに考えを書いて、共同編集アプリに考えを入力して…) 教師によって、授業のすべてを ICT で行う場合があるかもしれないし、ワークシートのみで行う場合があるかもしれない。私は本研究で、ICT を写真や動画等の資料提示のみに割り切ることにした。



(3) 決まったグループの見直し

生徒が自分の考えを相手に伝えるという第一目標を達成させることを優先し、スタート段階として「話しやすい人と集まって話す」ことから始めた。誰とでも意見交流ができるようにすることを目指してしまうと、現状では意見紹介に終わってしまう。そこで、お決まりのグループ(生活班)にこだわらず、「一人になることがないよう声をかけ、3～5人のグループを自由につくる」ことから始めた。そして次に、考えの違う人同士のグループに展開していくことにした。



↑話しやすい人同士で場所を見つけて気さくに話す様子

(4) 効果的な発問の設定(大きな発問)

まずは教材そのものを教える時間にならないように注意する。話の筋や心理分析にこだわりすぎず、範読や写真・イラスト等の視覚情報から生徒に理解させることを心がける。その上で、生徒の心を動かす発問を考えると共に自分事として捉え、様々な意見が出るであろう大きな発問を主発問に設定することを意識した。ねらいの中心を考えさせたいが、中心発問だけでは到達できない、という場合の補助発問以外はしないようにした。グループでの議論を終え、全体交流の場面では、異なる意見をもつ生徒に「Aさんの意見についてどう思った? Aさんには何と返した?」と聞いたり、教師が問い返しを行ったりして、ただの発表になったり生徒が受け身になったりしないように意識した。

(3) その他の取り組み

① これまでも続けてきたことだが、より一層、日常の生徒とのコミュニケーションを意識した。どの授業でも生徒のよいところを多く見つけ、賞賛することを学年職員で再確認し取り組んだ。授業間の10分休みには、必ず学年職員の誰かがフロアにいたようにした。また、学級活動の時間にエンカウンターを行ったり、生徒主催・進行の行事を開催したりした。

② 校内研修の時間を使って、他の職員に自身がやろうとしている取り組みや、考え得るICTの活用法を紹介した。また、他の職員にも紹介してもらった。



(5) 教材について

- ①主題名「情報モラルと友情」（指導内容 B (8) 友情、信頼)
(関連する指導内容 B (9) 相互理解、寛容)
- ②教材名「ゴール」（出典 東京書籍「新しい道徳2」編集委員会構成)
- ③ねらい

登場人物5人の関係を通して、友情を深めるために大切なこと、友情を崩さないために必要なことについて考えることによって、友情を深めようとする態度を育てる。

④教材の内容

強豪校に勝って新人戦で優勝するため、5人の女子生徒は日々の練習に励む。5人は互いの思いを共有し高め合うため、メッセージアプリの活用を始める。しかし、練習試合の敗戦理由を振り返った書き込みをきっかけに、友達関係は崩れかける。その後、何とか関係修復を図り目標達成を果たそうと、再びメッセージアプリを有効活用しようとする。アプリという手段を介して、思いの強さゆえの思わぬ方向への展開は、生徒の自我関与を引き出しやすい。友情を深める手立てとして直接の対話を大切にしつつ、アプリの有効活用も課題として考えるきっかけにしたい。

⑤主な発問（中心発問は◎）

- トラブルが起きた原因は何（誰）だと思いますか。理由も教えてください。
- ◎友情を崩さないために、5人はそれぞれどうしたらよかったですか。
- 自分が友だちとの友情を育てていく上で大切にしなければならないことは何だと思いますか。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) 基本発問や補助発問は、言葉でのやりとりで十分だとわかった。教材によっても変わると思うので、その都度吟味していく。
- (2) 交流が以前よりも活発になった。今回色々試してみてよかったと感じたところである。今後も継続していきたい。しかし、現段階ではディベートのような盛り上がりになっているので、議論にできるよう引き続き研究していきたい。
- (3) メッセージアプリの内容を生徒に読んでもらって、気持ちを考えやすくなったのが何となく伝わったので、今後ロールプレイも計画的に行っていきたい。
- (4) 可視化の点で ICT を使った方が良かったと感じた。ワークシートとのバランスを考えていきたい。
- (5) 多くの文献を参考にさせていただいた。基本的にすべて鵜呑みにする気持ちで取り入れたので、生徒の実態や学校の状況、自身のスキル・スタイルを考慮して精選していきたい。

6 参考文献

【教材資料・出典】

- ・『新しい道徳2』東京書籍

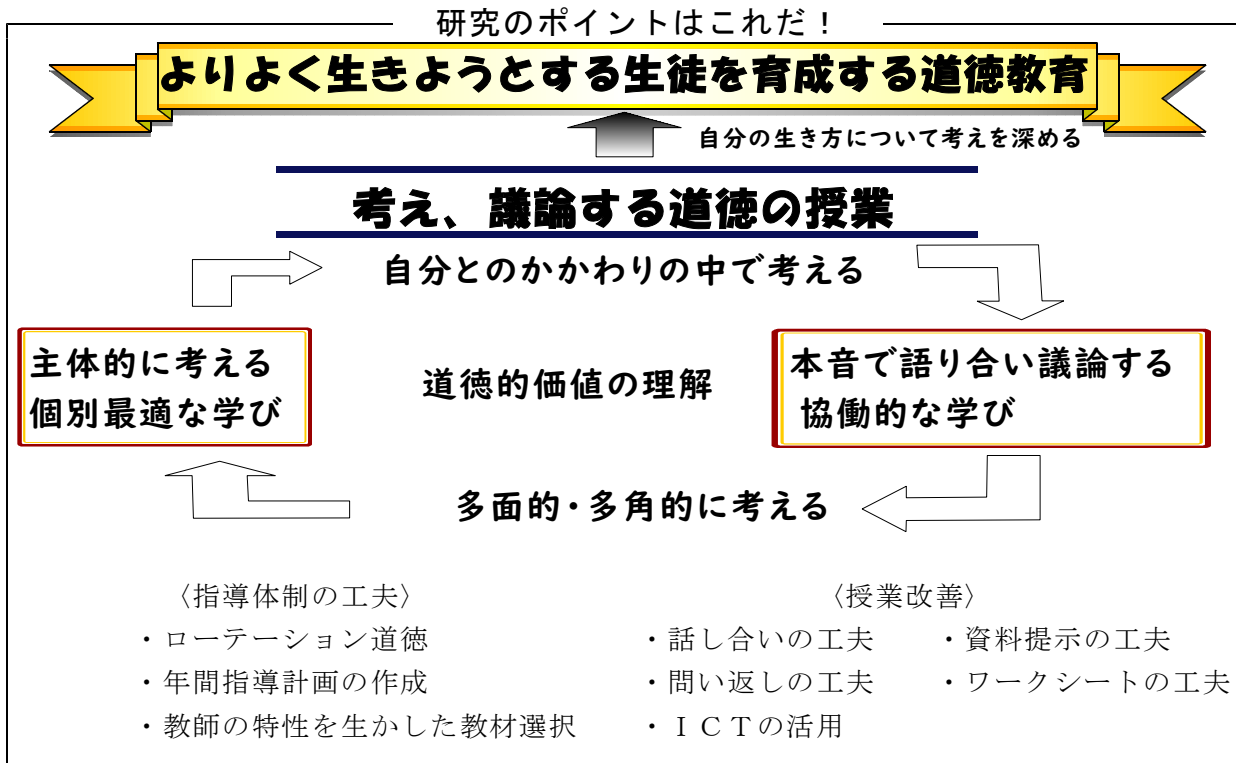
【参考資料】

- ・『学校における情報モラル教育について』文部科学省
https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_torikumi/kentokai/43/pdf/s3.pdf
- ・『はばたく群馬の指導プランⅡ』群馬県教育委員会義務教育課
- ・『はじめよう！道徳科』『ふかめよう！道徳科』群馬県教育委員会
- ・『考え、議論する道徳への第一歩（群馬県版）』東京書籍
- ・『教室の窓 どうとくのわ』東京書籍
- ・『子ども自ら気づき、深め、高める「特別の教科 道徳」の授業Ⅱ』
東京書籍・東京教育研究所
- ・『道徳教育』明治図書
- ・『みつむら web magazine』光村図書
<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga>
- ・『道徳科通信』光村図書
- ・『中学校「道徳科」スタートブック』学研教育みらい
- ・『日本教育資料 [道徳] どうとくのひろば』日本文教出版
- ・『ここが知りたい 小学校道徳15の疑問 VOL.2』日本文教出版
- ・『R3 道徳教育総合支援事業』みどり市立笠懸中学校 web ページ
<https://www.midori-school.ed.jp/kasachu/>

よりよく生きようとする生徒を育成する道徳教育

— 考え、議論する道徳の授業づくりを通して —

みどり市立大間々中学校 藤井 啓太



1 研究主題設定の理由

本校では令和元年度に「特別な教科 道徳」として位置づけられたことをうけて、校外研修や校内研修で指導と教科の一体化や授業の展開の仕方について研修を行ってきた。平成29年度に公示された新学習指導要領において、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と位置づけられた。このことから「考え、議論する道徳」の授業のあり方を追求し、充実させることが急務となった。

従来の「一方的に伝える道徳」から、「考え合う道徳」へと転換させるために、生徒が「主体的に考え、協働的に議論できる授業」の創造について考えた。この授業を展開するためには、生徒自身が、「考えたくなる」「語り合いたくなる」「いろいろなことを発見できる」ことが大切なのではないかと考える。上記の内容を実践するために生徒自身が「生きることに希望や意欲がもてる」「自分に自信がもてる」「自分を大切にする」という三つの気持ちを育むことができる授業実践を念頭に置いている。このことから生徒が「自分から考えたい」「友達と語り合いたい」と思う授業を創造し実践することが生徒のよりよく生きようとする態度を育成できると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

これまでの実践を踏まえ生徒の実態や発達段階に応じた授業づくりをすすめる中で、よりよく生きようとする生徒を育成していく。また、生徒が自主的に「考え、議論する」道徳の授業を展開するために、話し合いの工夫、資料提示の工夫、発問や問い返しの工夫、ワークシートの工夫をすることで「特別な教科 道徳科」の充実を図る。

3 研修の内容

(1) 主体的に考える

道徳的価値を自分事として捉え、自己を見つめ、生徒が問題意識をもって主体的に授業に取り組むことができるようにするために、以下のような手立てを実践していく。

- 「はばプラ2」を基盤とした、生徒の実態や発達段階に応じた授業づくり
- 他人事から自分事へと考えを置換できる発問
- 多面的・多角的に考えられる発問

(2) 本音で語り合い、議論する

他者と議論するために、以下のような手立てを実践していく。

- 話し合い方の提示
- 議論しやすい授業形態
- タブレット端末の活用
- 考えを広げることができる発問（問い返し）

(3) 指導体制の工夫（授業の充実について）

教員の授業力向上のために、以下のような手立てを実践していく。

- ローテーション道徳
- 話し合いの工夫
- 問い返しの工夫
- ワークシートの工夫

4 実践の概要

- (1) 主題名 「心の弱さを乗り越えるために」
(中心内容項目 D22：よりよく生きる喜び)
(関連内容項目 A1：自主、自律、責任と自由)

- (2) 資料名 「銀色のシャープペンシル」(出典：「新しい道徳1」東京書籍)

(3) 資料について

拾った銀色のシャープペンシルを思慮なく自分のものにしてしまった「ぼく」は、理科の時間に、シャープペンシルをとったことを疑われた際に、「前に自分で買った」と嘘をついた。さらに、誰もいない教室でこっそりと銀色のシャープペンシルを持ち主のロッカーに返す。その日の夜、心にモヤモヤとした気持ちを抱えながらも、「ちゃんと返したのだから文句ないだろう」と悩んでいたところに、銀色のシャープペンシルの持ち主である友達から電話があった。「疑ってごめん。」と謝られたことにより、「ぼく」は自分の過ちを責める気持ちと、きちんと言わなければならない、友達との関係を壊したくないという「心の弱さ」の間で葛藤し、最後は友達に謝ることを決意するという内容である。

本教材は「心の弱さを乗り越えるためにどのようにすればよいか」を考えるために適していると考えられる。

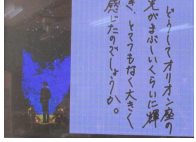
(4) ねらい

心の弱さや、それに打ち克とうとする主人公の気持ちの葛藤を捉えさせ、最後に主人公が心の弱さを乗り越えた場面について話し合わせることで、よりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を育てる。

(5) 準備 教科書、タブレット端末（ロイロノート）iPad（Good Notes6）

(6) 本時の展開

【ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問(◎中心発問◇補助発問) 予想される生徒の反応〔S〕	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(3分)</p> <p>◇今までにずるいことをしたり、ごまかしてしまったり、きちんと謝れなかったりしたことはありませんか。</p> <p>S：自分の失敗をきちんと謝ることって難しかったな。</p> <div data-bbox="178 788 837 922" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><めあて> 心の弱さを乗り越えるためにはどうしたらよいでしょう。</p></div>	<p>○道徳的価値を捉え、生徒の意識を道徳的価値に向かわせることができるように、過去の自分を想起するように問いかける。</p> <p>○自分の行いを反省させるのではなく、これからの自分をよりよくするために、前向きに考えるように促す。</p>
<p>2 教材文の範読を聞く。(7分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち共有する(25分)。 【★共有】</p> <div data-bbox="178 1198 837 1370" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>◇一人で教室に戻り、卓也のロッカーにシャープペンシルを返したときどんな気持ちだったでしょうか。</p></div> <p>S：盗んだと思われたくない。</p> <p>S：卓也に直接返したいけれど、返せない。</p> <p>S：自分のしたことをごまかそう。</p> <p>S：仕方がなかった。</p> <p>S：友達に本当のことは言えない。</p> <div data-bbox="178 1630 837 1758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>◇卓也からの電話の後、「ぼく」はどんな気持ちになったのでしょうか。</p></div> <p>S：申し訳ない。</p> <p>S：びっくりした。</p> <p>S：本当のことを言おう。</p> <div data-bbox="641 1780 837 1921" style="border: 1px solid black;"></div> <div data-bbox="178 1930 837 2065" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>◎どうしてオリオン座の光がまぶしいくらいに輝き、とてつもなく大きく感じたのでしょうか。</p></div>	<p>○あらすじを把握できるように、補助資料をテレビに投影する。</p> <p>【★思考の補助】</p> <p>○「ぼく」の気持ちを捉えることができるように、僕の気持ちの変化に着目して教材文を読むように促す。</p> <p>○「ぼく」の気持ちを自分事として考えることができるように、自分ならどう思うかを問いかける。</p> <p>○「ぼく」の気持ちの変化を捉えることができるように、iPadに「ぼく」の気持ちを書いて提示する。【★共有】</p> <p>○自分の考えを明確にさせるために、タブレット（ロイロノート）に中心発問について考えたことを記入するように促す。</p> <p>○多くの考えに触れることができるように、ロイロノートの提出箱に考えを提出するように指示する。【★提出】</p> <p>○話合いの場面では、自分の考えをきちんと伝えられるようにするために、理由を明確にする。</p> <p>○互いの考えに共感するために、タブレット端末の画面を見せ合い、自分の言葉で話すように促す。【★発信】</p> <p>○よりよく生きることに対する多様な</p>

S：「ぼく」を励ますため。
 S：決心した「ぼく」の後押しをしているため。
 S：自分もあの星のように明るく前向きに生きたいと感じたため。
 S：嘘はついてはいけないということに気付いたため。
 S：自分の決めたことをやり遂げようとする素晴らしさに気付いたため。



考え方を知り、自己の考えを広げられるように、グループで各自の考えの共通点や相違点を基に話し合うように促す。

- 交流を通して友達の見方に触れることで、ものの見方や考え方を広げる。
- 「ぼく」の感じたことからよりよく生きることの意義について多面的・多角的な見方や考え方ができるように、生徒の考えを視点ごとに整理して iPad に記入する。
- 生徒の考えを引き出すため、問い返しを行い、考えを深められるようにする。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。(10分)

【★共有】

◇心の弱さを乗り越えるためにはどうしたらよいだろう。

S：自分らしく生きることって大切だな。
 S：自分の心に素直に生きることって大事だな。

○友だちの考えを参考にしながら、自分の考えをより確かなものにするために、道徳的価値に迫る生徒の考えを意図的に指名して紹介し、心の弱さをどうしたら乗り越えられるか考えるように促す。

【★一覧表示】

5 本時で扱った道徳的価値に対して、これまでの自分を振り返り、思ったことや感じたことを書く。(5分)

【★保存・提出】

<振り返り>

S：今までは「しょうがない」「無理だ」という弱い気持ちに負けてしまうこともあったけれど、自分らしく素直にまっすぐ生きるために、強い心を持ちたいと思った。

○自己の生き方につなげられるために、道徳的価値に対するこれまでの自分や、よりよく生きることについて新たに考えられたこと、気づいたことをロイロノートに記述するように促す。

○生徒の振り返り

素直に謝れなかったり、嘘をついちゃっている自分はまだまだダメだなと思った。自分にこういう事が起きたら素直に謝ろうと思った。

なるべく隠し事をしないようにする。もし、してしまったらすぐに正直に話し、謝ることが大切だと思った。

心が弱いということは、自分の本当のことが言えないことだと授業で分かりました。振り返ってみると、クラスで何かを決める会議で、他の人の意見「集団同調性バイアス」に流されていることがありました。ちゃんと自分の意見を持てるようにしたいです。

嘘ではなく真実を伝え正直に生きていくことが大切だと感じた。

相手の意見も尊重しようと思う。

心の弱さは乗り越えられなくても、それを正直に話して、わかり合おうとする心や感情が必要と感じた。

今までは、ずるさなどをごまかして自分では気がついたにも関わらず、自分で変えないで生活したままにしていた。だから、素直に謝る、嘘や偽りをしない、言わないようにする。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 主体的に考える

生徒の実態に応じて生徒が登場人物と自分とを照らし合わせながら考えられる発問や、授業展開を意識して授業づくりを行った。その中で、生徒の実態を踏まえ、生徒が考えたいくなるような補助発問や中心発問を設定したことは、道徳的価値を自分事として捉え、よりよく生きようとする態度を育てるために有効な手立てであった。そこで見えてきた成果と課題は以下の通りである。

○「はばプラ2」を参考にタブレット端末を活用するタイミングや効果的な用い方を考え、生徒の実態や発達段階に応じた授業づくりを行うことができた。

○生徒が主体的に考え、話し合いができるようにするために、補助発問や中心発問について教材研究をしたことで、他人事から自分事へと考えを置換できるようになった。

○多面的・多角的に考えられる発問については、教師からの問い返しと同様に、生徒間においても互いに問い返しを行い、相手の考えを引き出そうとする様子が見られた。その結果、生徒の考えが深化し、主体的に考える様子が見られた。

○生徒の実態に応じて他人事から自分事へと考えを広げられる発問を投げ掛けることで生徒が主体的に考えられるようになった。

○「はばプラ2」を基盤とした、生徒の実態や発達段階に応じた授業づくりを行ったことで、学習の流れが明確になり、生徒が主体的に考える礎となった。

○問い返しを行うことで生徒の考えを深化することができた。

●他人事から自分事へと考えを置換できる発問においては、登場人物のことだと素直に考えを深められる生徒が多かったが、自分事に置換すると、尻込みをしてしまう様子が見られた。

●多面的・多角的に考えられる発問においては、多面的を「分析」、多角的を「選択」と位置づけ、双方が互いに結びつけられながら考えを深めていくことを目標に掲げたが、多角的に考える場面において、ブレインストーミングが思うように進まず、自分と異なる考えや予想だにしない考えが投げられたとき、考えを受容できない生徒が多くいた。

(2) 本音で語り合い、議論する

生徒が他者の考えと自分の考えを照らし合わせ、他者ととともに様々な視点から話し合い、議論することを通して自己のよりよい生き方を考えていけるようにするために、以下のような手立てを実践した。そこで見えてきた成果(○)と課題(●)は以下の通りである。

○話し合い方の提示では、①「話し合い」という言葉は中心発問の時だけに用い、班を組んでタブレット端末と表情を見せ合いながら意見交流を行うようにした。その際に「なぜ」「どうして」という言葉を投げ掛け、友だちの考えを引き出すことができるようになった。②補助発問については「おしゃべり」という言葉を用いることで、気軽に自分の考えを他者に伝え合い、自然と話し合うことができた。

○考えを広げることができる発問(問い返し)がやはり重要である。生徒が多面的・多角的に考え、議論するためには効果的な問い返しにより生徒の心を揺さぶることができた。

○タブレット端末の活用では、自分の考えと他者の考えを比較しながら自分の考えを深化させるという面では、とても効果的であった。

●タブレット端末に自分の考えを打ち込む（タイピング）速さに個人差が生じ、早くできてしまった生徒が待つ時間が増えてしまった。従来のワークシートを用いると、自分の書いたものを写真に収め、それを添付するのでは時間がかかることも分かった。それならば、生徒の考えをまとめる問いと中心発問に絞り、生徒がじっくり考え、議論することができる環境を整えれば本音で語り合い、議論する時間を確保できることが分かった。

（3）指導体制の工夫（授業の充実について）

教員の授業力向上のために以下のような手立てを実践した。そこで見えてきた成果（○）と課題（●）は以下の通りである。

・ローテーション道德

○本校では全校で道德の授業の時間が統一されているという利点を生かし、学年職員で特性を生かした教材選択をすることで、教員の得意分野を中心とした道德の授業を展開することができた。

○授業力向上のために、授業者以外の教員には積極的に授業参観を呼びかけ、授業検討会を行った。授業のテンポや発問のタイミング、考え議論する道德とはどのようなものかを話し合い、資質向上に努めることができた。

●教員間の授業力格差が生じていた。

○校内研修において授業の展開の仕方の統一を図ることで、教員間の授業力格差を解消するため手立てを講ずることができた。

・話し合いの工夫

○「話し合う」「議論する」という言葉を用いると、生徒が多角的に考えたことの是非を問うことになってしまっていた。このことから、補助発問の時にブレーストーミングの良さを用いて、「おしゃべり」というキーワードを用いるようにした。また、班をつくっての交流ではなく、近くの友達と話すことで生徒が気軽に思っていることを話せるようになった。

○友達に「なぜ」と問い返すことで生徒間で相手の思いを聞き出すことができるようになった。

・問い返しの工夫

○授業検討会により、効果的な問い返しについて考えを深めることができた。

●生徒の意見を瞬時に判断し、効果的な問い返しをすることができない場面があった。そのため、教材研究をきちんと行い、予想される生徒の反応を考えておく必要であると分かった。

・ワークシートの工夫

○「考え議論する道德」の実践のために、生徒がプリントに多くの考えを記入するのではなく、中心発問のみタブレット端末に記入する方法を実践した。その結果、「議論する」時間に割くことができるようになり、生徒が多面的に考える時間を確保につながった。また、教員からの問い返しによる揺さぶりを実践することにより、価値項目に迫ることができるようになった。

6 参考文献

【教材資料・出典】

・『新しい道德1』東京書籍

【参考資料】

・『中学校学習指導要領 特別の教科 道德編』文部科学省

・『はばたく群馬の指導プランⅡ』群馬県教育委員会

・『はばたく群馬の指導プランⅡ』ICT活用 Version 群馬県教育委員会

多面的・総合的な生徒理解に基づく道德教育

—ローテーション授業の実践を通して—

板倉町立板倉中学校 岩崎 智明

〈研究のポイントはこれだ！〉

自他を愛し、思いやりのある生徒



考え、議論する道德の授業を核とした道德教育の推進



- ・ 多面的・総合的な生徒理解
- ・ ローテーション授業の実施

1 研究主題設定の理由

本校では、学校経営ビジョンにおいて、「多面的・総合的な生徒理解に基づく成長を促す指導の充実」を掲げている。そこで、ローテーションで道德の授業を行うことで、担任だけでなくさまざまな教員からのアプローチにより、生徒の新たな考えや思いを引き出し、深めていくことができ、考え、議論する道德の授業が充実していくことが期待できる。また、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるという道德科の目標に沿った授業につながると考えられる。評価においても、複数の教員の視点で変容を見取るため、生徒の良い面を多く認めることができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

学年の教員を中心にローテーション授業を実施し、多面的・総合的に生徒を理解することで、考え、議論する道德の授業の充実を図る。

3 研究の内容

- (1) 指導体制の充実
- (2) 評価の工夫

4 実践の概要

(1) 指導体制の充実

全学年で水曜4校時に道德の時間を設定し、担任、副担任に加え、教務主任と教頭もローテーションに入って授業を実施した。担任だけでなく多くの教員が授業を行うことで、生徒の多様な見方や考え方を引き出すことができ、考え、議論する道德の授業を実践する。また、教材研究や授業準備の時間を確保し、前回の授業を踏まえた改善が期待できるとともに、教員一人一人の負担も減り、業務改善にもつながる。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・ローテーション授業の実施により、複数の教員が生徒と関わることで、生徒の多面的・総合的な理解につながり、多様な考えを引き出すことができた。
- ・同じ教材で4回授業を行うため、前回の授業を踏まえてよりよいものに改善することができた。
- ・担任が毎時間授業を行わなくてよいため、負担が軽減された。
- ・全学年が共通の評価シートを活用するため、どのような視点で生徒の変容を見取るかを共有することができた。

(2) 今後の課題

- ・ローテーションで授業を行うため、一人一人の教員が授業で扱う教材や内容項目が限られ、指導の幅を広げる機会が減ってしまう。
- ・授業を担当しない週に、積極的に他の教員の授業を参観できる体制をつくり、指導力の向上につなげる。
- ・あらかじめ用意してある例で評価の文章を作成するため、どの生徒も似たような評価になってしまう。
- ・担任が実施していない授業の評価が難しくなってしまう。

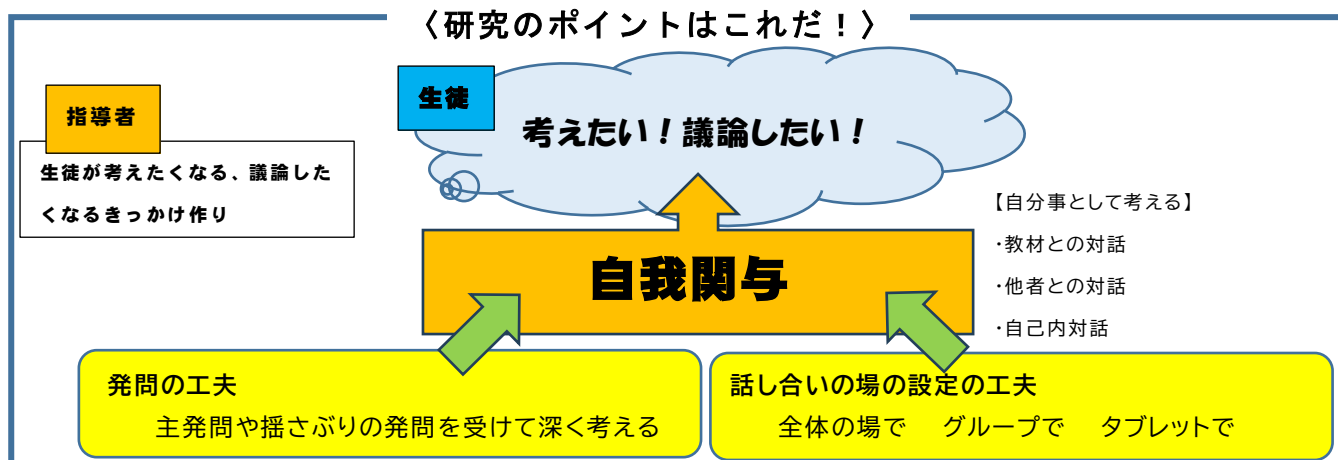
6 参考文献

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省

自我関与を意識し、自分との関わりで考える道德教育の充実

—発問と話し合いの場の設定の工夫を通して—

沼田市立沼田南中学校 小嶋 博子



1 研究主題設定の理由

道德の教科化において、「考え、議論する」という点が重要視されている。「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」では、道德教育において、「よりよく生きるために道德的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢」を育成することが求められている。生徒たちが現時点までの自分の生き方を見つめながら、資料について多様な視点で話し合い、議論をすることを通して、よりよい生き方を考えていけるようにすることが重要である。

また、そのためには、道德の授業における生徒たちの自我関与が欠かせない。「教材との対話」「他者との対話」「自己内対話」を通して、自分とのつながりの中で道德的価値について考えることが必須である。

以上のことから、道德の授業の充実を図るためには、授業内において生徒が自分事として考え、自分の意見を伝えたいとなるようなきっかけづくりが必要であると考えた。

2 研究のねらい

「考え、議論する道德」の授業を実践するためには、自我関与が欠かせない。そのため、生徒が考えなくなる、議論したくなるようなきっかけとなる発問を工夫し、道德の授業の改善と充実を図ることをねらいとする。「教材との対話」「他者との対話」「自己内対話」の三点において生徒の自我関与を促せるような発問と話し合いの場の設定の工夫を意識し、授業実践にあたっていく。

3 研究の内容

(1) 発問の工夫

発問により生徒たちがどのような自我関与ができるかを見取る。

(2) 話し合いの場の設定の工夫

生徒たちの自我関与を促すためにどのような形で話し合いの方法が適切か見取る。

① 全体で話し合う (司会が教師)

・板書 ・タブレット など

② グループで話し合う

・タブレット ・ホワイトボード

4 実践の概要

※本校では、年度初めに各学年の教員に教材や内容項目を割り振り、ローテーションで授業を実践している。今年度実践した授業については、本研究のために選択したものではない。

タイトル	内容項目	主発問	補助発問	場の設定	生徒の振り返り (自我関与)
尾高惇忠が目指した富岡製糸場	A-(4) 希望と 勇気、 克己と 強い意 志	尾高のど のような ところが 村人たち の心に響 いたので しょうか。	富岡製糸場を建 てるためにやっ ているのかな？ もっと大きな目 的は？	全体の場 で話し合 い(板書)	人々のために自分の財産を 投げ打つ覚悟で村人たちに 頭を下げたのはすごいけれ ど、今の自分にはできないな と思った。
初めてのアルバイト P4 実践例 (2)	C-(13) 勤労	仕事が「楽 しい」っ てどうい うこと でしょう。	本当に仕事は楽 しい？おうちの 人も「仕事が楽し い」と言っている？	グルー プごと に話し 合い	自分の両親も「仕事疲れた」 と言って帰ってくるが、き つと仕事が嫌いではないと思 う。自分も人のために働いた り、やりがいを見つけて働い たりできるようにになりたい。
旗 P3,6 実践例 (1)	B-(6) 思いや り、感 謝	この旗を 立てると だれが喜 ぶのでし ょうか。	喜んだのは少女 だけ？ なぜ旗なのか。他 のプレゼントが いいのでは？	全体の場 で話し合 い(板書)	少女が旗に気持ちを寄せて いたことに気付いた友達が 一番すごいと思った。友達 のために何かをしてあげると みんな嬉しい気持ちになる。
ソムチ ャイ君 の笑顔	C-(11) 公正、 公平、 社会正 義	孝文と和 樹は何が 違ったの でしょう か。	孝文は和樹と同 じく人の事を大 切にできる人だ と思っているよ ね？	グルー プごと にタブ レット で意見 を分類 (KJ 法)	泣いている友達を見た時に そっとしておくのが優しさ かな思っていたが、今日の授 業でちょっと悩んだ。相手に 優しさが伝わるようにする にはもっと行動を起こして いいのだと思った。
帰郷 P6 同じ内 容項目 「旗」 との比 較	B-(6) 思いや り、感 謝	「この町 がいいん だよ」とお 母さんが 言ったの は本心で しょうか。	「研一が いいん だよ」と 言いたか ったのは では？	グルー プごと に付箋 とホワ イトボ ードで 意見 を分類 (KJ 法)	自分だったら親元を離れら れないと思いました。でも、 離れても離れなくても自分 に関わる様々な人を大切に していきたいと思いました。
償い P5 実践例 (4)	D-(22) よりよ く生き る喜び	償い続け たゆうち ゃんは許 されたの でしょう か。	ゆうちゃん はどのよ うな人？ ゆうちゃん を許せな い人は誰？ ゆうちゃん はどのよ うな思い で償ってい るの？	全体の場 で話し合 い(板書・ タブレッ ト)	ゆうちゃんは許されなかつ たと思うが、償う気持ちを理 解してもらえたのではない か。奥さんは、ゆうちゃんに しっかり生きてほしかった のだと思う。

実践例（１） 「旗」 B-(6)思いやり、感謝

- (1)ねらい 旗を眺めていた孤独な少女の気持ちを想像しながら、少女のためにした周囲の人々の行動を多面的・多角的に考えることを通して、相手を思いやろうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
- (2) 準備 教師：ワークシート、タブレット、大型テレビ 生徒：ワークシート、タブレット
- (3) 展開 **黄色のライン**は自我関与に関する発問

主な学習活動	指導上の留意点
1、本時で扱う道徳的価値について自分の生活経験から考える。(5分) 「相手を思って行動したことがありますか」	○家族や友達に対して思いやりをもって行動したことを想起させ、本時に扱う道徳的価値を意識させる。
〈めあて〉相手を思って行動することについて考えよう。	
2、教科書の教材文の範読を聞く。(10分) 3、教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) ◇「旗を眺めていた少女はどのような気持ちだっただろう。」 s：引っ越したり転校したりとただでさえ不安なのに、怪我で登校できずさらに孤独。 s：自分なんか誰からも相手にされない。居ても居なくても同じ。	○主人公の少女が、「この上ない友達となっていた」旗を眺めている際の気持ちを想像させる。 ○「何もできない」「何もしない」と書く生徒がいてもよい。少女のことを何も考えない無関心さとは異なるからである。相手のことを思った上で、どう行動すべきか迷うことも大切なことであると認めていく。
◇「少女と同じクラスに自分がいたら、何をしていたか。」 s：手紙を書いてあげたり、家に通ったりして励ます。 s：何もせず見守ることしかできない。	なぜ旗なの？他のもの(漫画やプレゼント)をあげた方が喜ぶのでは？
◎「立った旗を見て喜んだのはだれだろう。」 s：少女が一番喜んだはず。 s：友達も少女が喜ぶ顔を見て嬉しかったと思う。 s：先生も少女や友達たちが一生懸命旗を立てていて嬉しかった。 s：商店の息子や父親も自分たちが旗を屋根に立てる許可をしたことで少女が喜ぶ顔を見て、嬉しかったのでは。	○少女の立場に立って考えた友達たちの心情を想像させるために、なぜ旗を作る選択をしたのかを考えさせる。 ○旗が立てられた経緯や友達たちの心情を想像させることで、だれのどのような優しさがあったのか、多面的・多角的に考えさせる。 ○少女に対するさまざまな人からの思いやりを多面的・多角的に考えさせるために、ペアやグループで話し合いをさせ様々な意見を出すことができるようにする。 ○様々な意見に触れ、自分の考えが深まるように、ロイロノートカードに意見を記入させ、全体で共有する。その際に、友達の見解でいいと思ったものを発表させる。
4、道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(10分) 「思いやりのある行動とはどのような行動だろう。」 【★共有】	喜んだのは少女だけ？本当にその人たちだけ？
5、本時で扱った道徳的価値に対する思いやユニットのテーマ「望ましい友達との関係とは」に沿った意見や考えの振り返りをする。(5分)	

〈振り返り〉s :「思いやりといっても様々な思いや行動があり、相手を思うことだけでなく、相手の立場に立って考え相手に思いが届くような言動をとっていきたい。」

【評価の視点】

- ・発言・ワークシートの記述から、「相手を思いやることとはどのようなことかを多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・発言・ワークシートの記述から、「これから友達に対して思いやりをもった言動をとっていかうとする」姿を見取る。

実践例（2） 「初めてのアルバイト」 C-(13) 勤労

発問	生徒の反応
(導入) どんなアルバイトをしてみたい？	飲食店 ファミレス お菓子工場
アルバイトを選ぶときに、どんな条件を重視する？	時給の高さ お休みが取れる仕事 制服がかわいい
みんなのおうちの人は「仕事楽しかったー！」って言って帰ってきますか？	そうではない時の方が多いかも。でも楽しくない訳じゃないと思う。
お客さんのおばあさんと丁寧にお話しても、時給は上がらないよ？	だれかのために働くことの楽しさを味わっていると思う。
「仕事が楽しくなってきた」ってどういうことだろう。	仕事に慣れてきたから自分に自信が持てている。だれかのために働いたり、だれかが喜んでくれたりすると嬉しい気持ちになる。

※順番は授業内の時系列で並べてある。

実践例（3） 「望ましい友達との関係とは？」（ユニットのテーマのまとめ）

※本校ではユニット道徳を実践しており、ユニットの最後の時間には「ユニットのテーマのまとめ」の時間を設定している。ユニットで組まれた授業を振り返り、より深める時間になるように授業実践をしている。

《授業内で用いたスライド》

ユニット2まとめ 望ましい友達との関係とは	ユニット2で学んだ内容 ①美しい母の顔 ②初めてのアルバイト ③つい言い過ぎて ④旗	ウォーミングアップ 隣の人と話そう ★ポイント 自分の立場を明確にして相手に伝えよう	どちらの考えに近い？ ①秘密をさらけ出せるのが親友だ ②秘密をさらけ出せなくても親友だ
---------------------------------	--	---	---

どちらの考えに近い？

①自分のいいところも悪いところも全て理解してくれるのが親友だ
 ②自分を全て理解してくれなくても親友だ

どの考えに近い？

①友達はたくさん必要だ。
 ②仲のいい少数の友達がいれば多くの友達は必要ない。
 ③多くの友達より多くの仲間が必要だ。
 ④友達も仲間も必ずしも必要ではない。

友達って？

①自分の悩みも話せる人
 ②自分の悩みは話せないけど楽しくお話できる人
 ③話さなくても一緒にいて居心地のいい人
 ④頻りに遊ぶ人
 ⑤頻りに遊ばないが、時々会いたくなる人
 ⑥しばらく会ってなくても久しぶりの再会を喜べる人
 ⑦自分や相手の悪いところもいいところも指摘し合える人

望ましい「友達との関係」とは

グループごとに記入したくんにまとめよう

生徒の意見から

「望ましい」とは自分にとって望ましいと思うことなのではないか。自分のことを全て理解してくれるのが友達や親友と思っている生徒や、距離感を保ちながら接したい人もいる。

どの生徒も自分の意見をもてるように、選択肢を準備！その記述をもとに話し合い。

実践例（４） 「償い」D-(22)よりよく生きる喜び

【主発問「償い続けたゆうちゃんは許されたのでしょうか。」に対する生徒の意見】

<p>終了</p> <p>許された</p> <p>「罪を犯した」という事実は恒久的に残り続けるけれど、7年間も罪を償うために生き続け、被害者の遺族という一番辛い立場の人に許されたのだから、許されたということで良いと思った。</p>	<p>許された</p> <p>夫のことは思い出すのは辛いけど7年間欠かさず送金する誠実や、償っているがわかってきた。許さずにも自分が苦しみ憎んでもお互い嫌な感情を残してあの世へ逝くから</p>	<p>編集 コピー 使う 画面配信</p> <p>許されてはいない</p> <p>・自分の大いさなをしておいて、そのいとして送金されても大事な人は帰ってこないし、一生会えないという事実は変わらない。でも、このままずっと送金していたらゆうちゃん自身が持たなくなってしまうし、送金が自分の中で義務(?)みたいな感じになってしまっ、自分の自我を失ってしまうし、このまま自分の人生(送金生活)を終えてしまうのではないかと思ったから。</p>
<p>許されていない</p> <p>(奥さん)</p> <p>許したいけれど許せないという気持ちがあったのだと感じました。許してしまったら旦那さんが消えてしまう気がしたのでは……しかし、ゆうちゃんの優しさや誠実さは、理解できたのだと思います。(ゆうちゃん)</p> <p>許してもらおうとは思っていなかったと思います。けれど、奥さんから手紙が来たことで少し気持ちは楽になったのではないかと思います。</p>	<p>まず許されることはないと思います。俺なら絶対許さないし、手紙に「人殺し、あんたを許さない。」と言ったことについて謝罪がないという事は、言ったことを後悔していない。つまり許してはないということ。でも、ゆうちゃんはわざとではないし後悔していると思うから。同情+怒り (怖すぎ……)</p>	<p>許されていない</p> <p>一生許されないし、忘れないことだと思ふ。ゆうちゃんが優しいからこそ、送金をやめても苦しみは続くし、ゆうちゃんは自分自身を許さないと思ふ。これから一生まわりつく苦しみだと思ふ。自分が死んで償うのではなく、生きて一生苦しむ方が怖い。</p>

赤いカードに記している生徒が「許された」、青いカードに記している生徒が「許されていない」という立場をとっている。許されてはいないが、「理解はされた」と記している生徒もおり、同じ色中でも多様な意見が出ている。

【授業の振り返りで書かれた生徒の意見】

<p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ</p> <p>終了</p> <p>今回の授業では「償い」をテーマに考えていきました。自分の犯した過ちはもう許されはしないし、忘れられない事実だけどゆうちゃんの誠実さ、真面目さが7年間、少しでも伝わったのかな、?と思いました。奥様が言った「もう送金しなくていいですよ」という言葉はゆうちゃんを救うための言葉だったのかなと感じました。きっとこれからもゆうちゃんはこの過ちを忘れはしないだろうし、奥様も被害者もずっとずっと根には持っていると思いますが、ゆうちゃんの誠実さがそれを少しでも楽にしたのかなと思いました。</p>	<p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ</p> <p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ。</p> <p>一つの「命」でこんなにも沢山の人が悲しんだり、苦しんだりするのだと思いました。「償い」は死んで償うのではなく、生きて、人を殺してしまったという事実を受け止めて、苦しみながら生きていく事や心にずっと残すことが「償い」なのかなと思いました。</p>	<p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ</p> <p>画面配信</p> <p>一度してしまったことは取り返しがつかないけれど、逃げずに償いをするのはとても大事な事だと思いました。たとえ許されなくても、その償いを続けることが重要で、ゆうちゃんも奥さんに許されていないけれど、「もういいです、これからはあなたの人生を取り返してください」と言われ、解放されたんだと思います。どんな罪でも、許されることを期待せず、償い続けることが必要だと、今回の授業で気づきました。</p>
<p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ。</p> <p>僕が奥さんの立場、誰か大切な人を失ったとしたら、復讐すると思ふし、もし加害者の立場だったら、命で償えるわけもないのに、死ぬという逃げに走るかもしれないです。どちらにしろ、人の力がないという方向には進まないと思いました。</p>	<p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ</p> <p>今日の授業から「償い」ってどんなことなんだろうかと考えました。今回のゆうちゃんの立場にもし、自分になったら考えたら、私もお金でしか償えないかなと思いました。(お金以外の償い方がなかなかないって言うか…)誤っても誤っても許しては買えないことだから、だったら被害者の少しでも助けになることができるとなったら「お金」が一番最初に出てくる気がしました。しかし、ゆうちゃんは自分の少ない給料すべてをその被害者に捧げていて、相手のことを第一に考えているからこそできることなのかなと思いました。</p>	<p>今日の授業で思ったこと、考えたことを書きましょ。</p> <p>ゆうちゃんは「人を殺した」と一生許されないことをしてしまったけれど、奥さんたちに送金をして「どうか少しでも楽になってください」と7年間送り続けた思いは奥さんにも届いたと思います。奥さんはこれからもっと楽しく過ごそうと思っていたことが一瞬で壊れたのだから相当つらいと思ふます。許したわけじゃないし、もう関わらないでほしいと強く思っているだろうけれど、ゆうちゃんには主人のことで人生などをだめにしておいてほしくないと思ふたんだと思います。</p>

自分の意見をタブレットに打ち込み、どの生徒の意見も見られるようにした。自分が考えた「償い」が重なる部分もあれば異なる部分もあると感じ取ることができたと思ふ。生徒たちが、どのように「自分の人生を生きる」べきであるかを深く考えることができたと思ふれる。

実践例の比較【同じ内容項目「B－(6) 思いやり、感謝」の比較】

同じ内容項目の実践について、「自我関与」の観点からベン図にまとめて分析してみた。

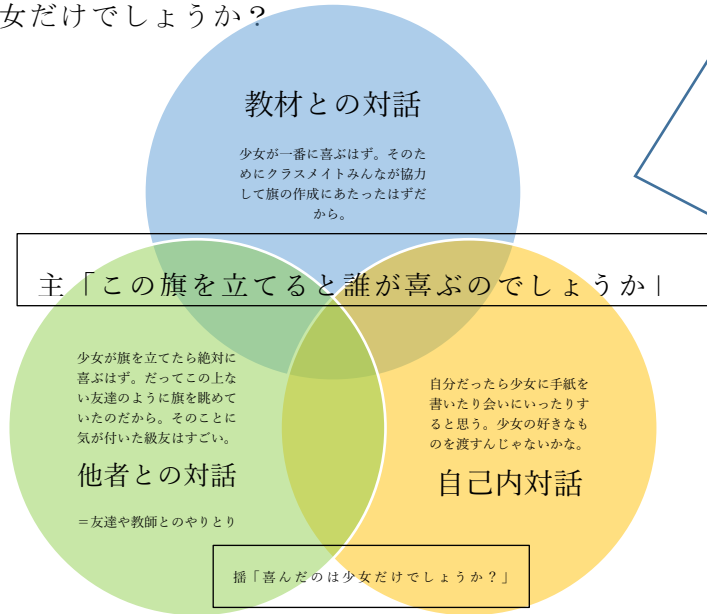
『旗』

概要：転校して間もなくけがをして学校を休んでいる少女のために、新しいクラスメイト達が学級旗を立てて少女に見せた。少女は心からこの町に引っ越してきてよかったと思った。

場の設定 全体場で話し合い（板書）

主発問 この旗を立てるとだれが喜ぶのでしょうか。

揺さぶり 喜んだのは少女だけでしょうか？



板書に図式化しながら生徒の意見をまとめていった。教師主導で生徒の意見をつなげていったが、発言ができない生徒の意見をくみ取ることが課題であった。また、話し合いの大前提として自分の意見をしっかりとるような時間の確保も必要である。

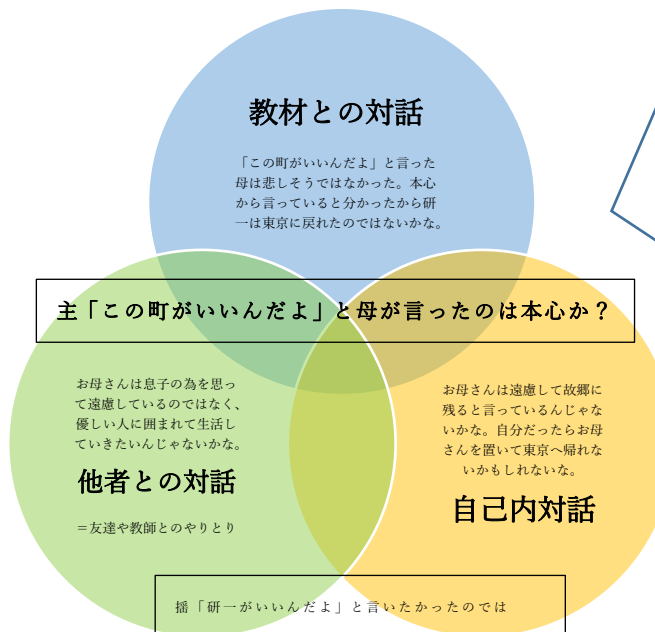
『帰郷』

概要：東京で俳優をしている研一は故郷に住んでいる母が倒れたと聞き、帰郷する。一命をとりとめた母と一緒に東京で暮らすように促すが母は「この町がいいんだよ」と断る。母の周りには手助けしてくれる友人や知り合いがたくさんいる。

場の設定 グループごとに付箋とホワイトボードで意見を分類（KJ法）

主発問 「この町がいいんだよ」とお母さんが言ったのは本心でしょうか。

揺さぶり 「研一がいいんだよ」と言いたかったのでは？



生徒たちにKJ法で意見を分類させたことで意見交流の時間を多くとることができた。また、生徒主体で班としての結論を導き出すこともできた。しかし、班によって意見の深まりにムラがでた。最後に全体場で各班の意見を発表させたことで共有ができた。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

本研究では、生徒の発言や振り返りをもとに、発問や話し合いの場の設定が生徒の自我関与を促すという点から適切であったかを見取ることとした。振り返りでは、全ての生徒が自分の意見を書くことができたことから、授業の最後には自分の意見をもったり深めたりすることは最低限できたと考える。また、授業中の反応から見ても、発問後自分の意見を言いたくてつい声を出したくなる生徒やすぐに話し合いに取り組むことができる場面が見られた。また、「償い」の授業をした際には、発言は出てこなくてもぐっと考えている様子が見られた。自我関与を意識して発問や話し合いの場を設定することで、道徳の時間が自分の考えを深めたり新しい意見に触れたりできる時間だと生徒たちに認識してもらえたと考える。

(2) 今後の課題

今後の課題としては、生徒たちが自分の事として考えている場面をどのように見取っていくべきか、評価の観点で検討する必要があると考える。発問によっては、自我関与に焦点を当てすぎて教材と離れすぎてしまうこと、例えば、実生活に当てはめすぎて登場人物の気持ちと乖離してしまうなど、自分自身の枠から離れられず、想像力を働かせることができないような場面も見られた。どのように生徒たちが教材と適切な距離を保ち、想像力を働かせながら自分事として考えていくことができるのかを検討していくべきである。また、今回の研究では、場の設定や発問も大きく生徒の自我関与に影響してくることが分かった。教材研究の段階において、生徒が考えやすい分かりやすい発問、少し頭を悩ませる発問、など段階的に設定していくなど工夫が必要である。教師側の深い教材研究が欠かせないと実感した。

6 参考文献

みつむら web magazine 「考え、議論する道徳とは」「自我関与とは」「読み物教材における自我関与ってなに？」

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga/jugyou/s-dotoku-qa/vol06>

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga/jugyou/keywords/vol06>

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga/jugyou/s-dotoku-qa/vol13>

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（整理案）文部化科学省

「新・中学生の道徳 明日への扉 2」学研

自己の生き方を考え、他者とともによりよく生きようとする生徒の育成

—協働的な学びを充実させるための指導の工夫を通して—

川場村立川場中学校 長山 浩也

〈研究のポイントはこれだ！〉

自己の生き方を考え、他者とともによりよく生きようとする生徒

協働的な学びの充実

導入場面の工夫
・事前アンケート
・範読の際の工夫

主発問場面の工夫
・意見交流の流れ
・問い返し

振り返り場面の工夫
・導入を想起し、課題の答えを考える

1 研究の主題設定の理由

本校では、今年度より「主体的に取り組み、確かな学力を身に付けた生徒の育成～考えを表現し合う協働的な学びを通して～」というテーマで校内研修に取り組んでいる。特に、「協働的な学び」を柱として、日々の授業実践や授業検討会などを通して研修を深めている。

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳」には、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」とあり、そのためには、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが求められている。この目標に迫るために、道徳科の授業においても協働的な学びを充実させることが重要である。道徳科における「協働的な学び」とは、自分自身の考えをもち、他者の考えとの比較を通して新たな考えに気づき、自分の考えを広げたり、深化させたりすることが考えられる。

しかし、自らの指導を振り返ってみると、協働的な学びとして、全体やグループで話し合う場面を設定してはいるが、その中で出てくる意見や話し合う内容としては、あまり深まった意見ではなかったり、本音を引き出すことができていなかったりしているのが現状である。

そこで、本研究では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、協働的な学びを充実させる指導の工夫が必要であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒を育むために、協働的な学びを充実させる指導方法の工夫を実践・検証し、より効果的な手立てを確立する。

3 研究の内容

協働的な学びを充実させるために、導入場面、主発問場面、振り返り場面の各場面で以下のような工夫を行う。

(1) 導入場面の工夫

- ・事前アンケートを実施し、自身の経験を想起しながら本時の道徳的価値を意識できるようにする。
- ・範読の際に登場人物の整理をしたり、パワーポイントであらすじを提示したりする。

(2) 主発問場面の工夫

- ・主発問において、自分の考え、立場を明確にできるような工夫をする。
- ・ペア→グループ→学級全体という流れで活動を行う。
- ・全体共有では、問い返しを意識する。

(3) 振り返りの場面の工夫

- ・本時の課題について、自身の考えを書くようにし、その際に、導入場面を想起させ、自身の考えの変容に気付けるようにする。

4 実践の概要

(1) 主題名 誠実な生き方 (内容項目 A 自主、自律、自由と責任)

(2) 教材 「裏庭の出来事」新中学生の道徳 明日への扉1 Gakken

(3) ねらい

窓ガラスを割ったことをその場で正直に言えずに、「黙っているか」、「言いに行くか」で葛藤する健二の様子から、誠実に生きるためにはどんなことが大切かを考えることを通して、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行していくための道徳的判断力を育てる。

(4) 本時の展開

主な学習活動 ・ 予想される生徒の反応 太字は主な協働的な学習の場面	形態	○指導上の留意点
<p>1. 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直な人。 ・嘘をついてごまかしてしまうときもあったな。 	一斉	○「誠実さ」について問題意識をもてるように、事前アンケート結果を提示し、誠実な人とはどんな人か、自分は今までどうだったか、クラスの人考えを共有す
<p>課題 誠実に生きるためにはどんなことが大切なのだろう。</p>		○登場人物の気持ちの葛藤に寄り添えるように、主人公の健二になったつもりで話を聞くように促す。
<p>2. 教科書の教材の範読を聞く。(8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の健二になったつもりで話を聞くのだな。 		

<p>・悩みながら家に帰っていった時が1番気持ち揺れ動いている気がするな。</p> <p>3. 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄一に悪いな ・大輔の立場もあるから本当のことは正直言づらい。 ・大輔との仲が悪くなるのも嫌だから、「黙っている」方の気持ちが強いな。 ・やっぱり本当のことを言って、責任を取るべきだな。その方がすっきりする気がするな。 <p>4. 道徳的価値に対する多様な意見を知り、本時の課題に対しての結論を考える。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誠実に生きるためには、自分のしたことは自分自身で責任を取ることが大切だな。 ・誠実に生きるためには、自分に正直に生きることが大切だな。 	<p>ペア</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合う場面を生徒の考えから焦点化することができるように、主人公が特に気持ちが揺れ動いている場面はどこだったか問いかける。 ○窓ガラスを割ったことを正直に言えずにいる健二の心情を考えられるように、雄一が先生に謝っている時の健二の気持ちを問いかける。 ○健二の気持ちを考えることができるように、「黙っている」、「先生に言いに行く」の気持ちの割合を心のバロメーターで考え、その位置にした理由も考えるように促す。 ○健二の葛藤に対する多様な考えに触れることができるように、グループで各自の考えの理由を基にして話し合うように促す。 ○全体で考えを共有できるように、黒板の心のバロメーターに自分の考えの位置にマグネットを貼るように促す。 ○健二を突き動かしたものは何か問いかける。 ○本時の課題の結論を見出すために、誠実に生きるためにはどんなことが大切か問いかける。 ○「誠実な生き方」に対する多様な考えを知り、自己の考えを広げたり、深化させたりできるように各グループで課題の結論について話し合うように促す。
<p>5. 本時の授業で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(7分)</p>	<p>個人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の生き方につなげられるよう、道徳的価値に対するこれまでの考えや、誠実さや責任ある行動について新たに考えたこと、気付いたことを書くように促す。
<p><振り返り></p> <p>S:バレなければ良いかなと思って、ごまかしてしまったことがあったけど、誠実に生きるためには、自分自身に正直に行動することや、自分でしたことは自分で責任を取ることが大切だと思った。</p>		

<p>◆評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言、ワークシートの記述から、気持ちが揺れ動く中で、自ら考え、判断し、正直に生きることが誠実な生き方につながることにについて多面的・多角的に捉えられているかを見取る。 ・発言、ワークシートの記述から、今までの自分の生活を振り返りながら考えることで、自分も責任ある行動をし、誠実に生きていくことの大切さについて考えられたかを見取る。

(6) 授業で使った資料とその様子

資料1 事前アンケート (Google フォーム)

自分が考える誠実な人とは、どんな人ですか？*

記述式テキスト (長文回答)

自分は、今まで誠実に生きてこられましたか？*

誠実に生きてこられた

誠実に生きてこられなかった

どちらとも言えない

上記の質問でそう選んだ理由を書いてください。*

記述式テキスト (長文回答)

資料2 使用したワークシート

9. 裏庭での出来事

月 日 1年 組 番 名前

課題

1. 気が重いまま家に帰った健二の心の内を考えよう。

感づいていよう。 先生に 言に行こう。

理由

2. 課題に対する自分の考えを書きましょう。

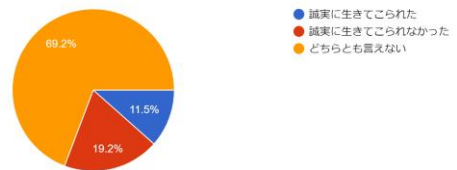
3. 振り返り。

【アンケート結果】

○自分が考える誠実な人とは、どんな人ですか。
真面目な人、嘘をつかない人、自分に正直な人
誰にでも優しくできる人、
自分よりも他人を優先する人、努力する人、冷
静な人、わからない etc

○自分は今まで誠実に生きてこられましたか。

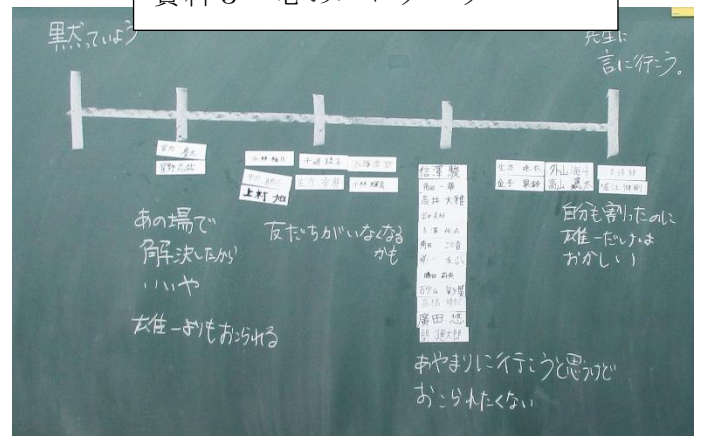
自分は、今まで誠実に生きてこられましたか？
26件の回答



(理由)

- 授業などで真面目に受けることができたから
- 自分がやるべきことはしっかり行うようになってきたから。
- 真面目ではなかったから
- 嘘をついてしまったりしてしまったことなどが過去にあったから
- まじめな時やまじめじゃない時があったから
- 悪いこともよいこともやってきたから。
- 真面目に考えることができた時もあったし間違った判断をしてしまう時もあったから
- 人によって態度を変えてしまったりしてしまったから。
- 他人に流されてしまうときがあるから。
- 誠実とはどんなことか分からない

資料3 心のバロメーター



生徒の記述

【2. 課題に対する考え】

- 人の意見に惑わされず、自分がやったことをしっかりと受けとめて、行動することが大切。
- 自分がどんなに悪いことをしてしまっても、隠したり、嘘をついたりせずに正直に言うこと。
- 正直な気持ちやそれを伝えられる勇気が大切。
- 自分に正直にいられるようにする。
- 正直な心をもつこと

【3. 振り返り】

- 完璧な誠実な人になるのは難しいかもだけど、少しずつでもいいからうそをつかず正直でいて誠実な人を目指そうと思った。
- 誠実とは自分にうそをつかないということだと感じた。
- 大切なことは自分でちゃんと判断しようと思った。
- 自分の行動、発言には責任をもって生活していきたい。
- 他人の意見に流されないように、自分の意思をもっていきたい。

(7) 校内研修での授業検討会

本校では、校内研修の取り組みとして、一人一授業の実施と授業検討会を行っている。授業を参観する際には、参観の視点①「ねらいにせまるための手立て」はどうだったか、②「協働的な学習についての手立て」はどうだったかについてそれぞれ成果、課題、生徒の様子・変容を付箋に記入する。それらを基に、2つの班に分かれて、班別協議を行い、各班の検討内容を発表する。今回の授業について検討された内容は以下の通りである。

① 「ねらいにせまるための手立て」はどうだったか。

【成果】

- ・事前アンケートを実施し、導入で紹介したことで、クラスのみんなの意見を視覚的に捉えることができ、今回の題材に生徒の思考が入りやすかった。
- ・範読前に登場人物の整理をしたり、物語のあらすじをパワーポイントで提示したりしたことで、生徒が今回の題材に入りやすかった。
- ・ワークシートの心のバロメーターに、自分の考えの位置に丸をつけることで自分自身の考えを表現しやすかった。その後、黒板の心のバロメーターにネームプレートを貼ったことで自分自身の考えを明確化することに役立ち、クラス全体で可視化することが出来たので、自分と他者の考えの違いがはっきりとわかり、良かった。
- ・授業を通して「誠意さ」について最後までぶれずに進めることができ、生徒がぶれずに考えることができ、良かった。

【課題】

- ・心情メーターの活用の際に、同じ考え同士、異なる考え同士の交流があるとよかった。
- ・「なぜ、誠実に生きるのか」というような視点で最初に自分の考えを持てると変容がわかりよかった。
- ・資料から離れ、実生活に置き換える発問が必要だった。教科書について考える時間を十分に取ったことにより、振り返りに時間をかけることが出来ていなかった。

② 「協働的な学習についての手立て」はどうだったか。

【成果】

- ・全体共有の前にペアなどで意見交換をすることで、自発的な発言を促していた。
- ・心のバロメーターにより、自分の考えを表現しやすく、交流活動が活性化した。

- ・「何で悩むの?」、「何で言いに行けない?」など、問い返しをしていて、生徒の考えの真意を引き出すような発問になっており、よかった。
- ・範読を聞き、主人公の気持ちが揺れ動いている場面を問いかけることで、生徒が自発的に考えることができ、話し合いに意欲的に迎えていた。

【課題】

- ・心のバロメーターで考えた意見をもっと議論させられるとよかった。
- ・ペアやグループの交流で何を求めるのか明確に出来るとよかった。

5 研究の成果と今後の課題 (成果○ 課題△)

(1) 本時の課題につながる導入場面の工夫

○導入部分で事前アンケートを用いて自身の経験を想起することによって、生徒が本時の内容項目を意識することに有効であった。また、範読前に登場人物の情報を整理したり、パワーポイントを用いて物語のあらすじを確認したりすることで、生徒の思考を今回の題材につなげることに有効であった。

△事前アンケートの質問項目を再度吟味し、本時の課題に対して問題意識をもつことが出来ているのかを考えていく必要がある。

(2) 活発な交流活動が生まれるような発問、学習形態の工夫

○主発問の場面において、心のバロメーターを用いることによって、自分自身の考えを表現しやすく、全員が自分の考えをもつことが出来た。また、黒板にもネームプレートで張ることで、クラス全体の意見を可視化することができ、自分と他者の考えの違いが明確になった。それにより、ペアやグループ活動での話し合いが活性化することにつながった。

○意見の共有の場面でペア→グループ→学級全体という流れで行うことで、生徒自身、クラスの雰囲気も発言のしやすい雰囲気になり、活発な意見の交流を行うことが出来た。

○教師自身が生徒の発言に対して、問い返しを意識することで生徒の考えの真意を引き出すことができ、考えを深めることに有効であった。

△心のバロメーターの意見の共有を生活班での話し合いに留めてしまった。同じ意見同士、違う意見同士の小グループでの議論する時間を取る必要があった。

△ペアやグループ活動をする意味合いが全体共有の場での発言するための雰囲気作り、気持ち作りになってしまっていた。それぞれの段階を経ることで、考えが深まることが必要であり、交流の目的を明確に提示できると良かった。

△教科書からはなれる発問、実生活に置き換える発問をより吟味する必要がある。そして、そのような発問の中で問い返しを意識する必要がある。

(3) 振り返りの場面の工夫

○課題に立ち戻ることで、生徒の思考がぶれずに進むことができた。事前のアンケートでは「誠実さ」とは何か分からないと答えていた生徒も、課題に対する答えについては全員が考えをもつことが出来ていた。

△今回の授業実践では、展開部分で問い返しや議論することを意識したことで、振り返りの時間が十分に取ることが出来なかった。

6 参考文献

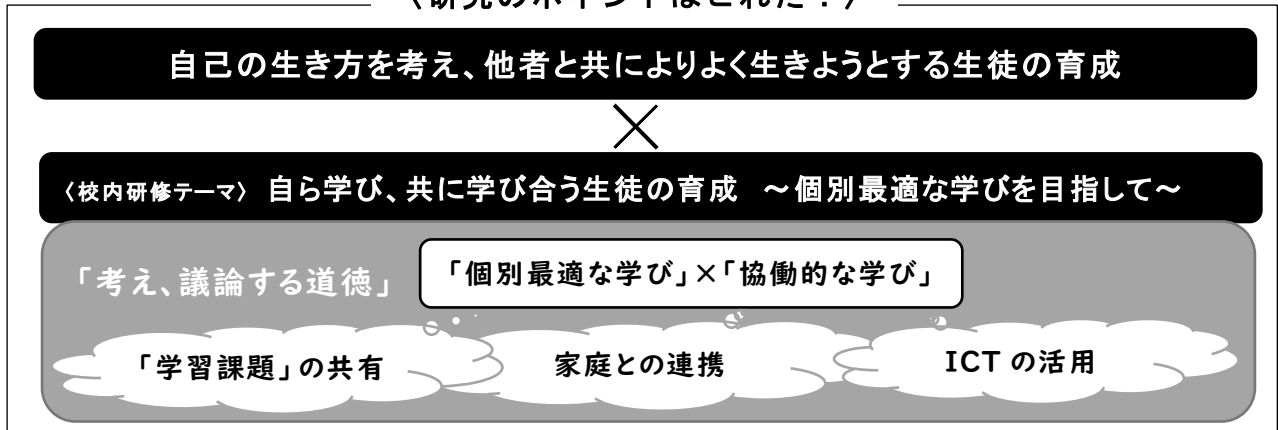
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科 道徳編』

自ら学び、自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成

— 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指して —

東吾妻町立東吾妻中学校 宮崎 瞳

〈研究のポイントはこれだ！〉



1 研究主題設定の理由

近年では、「教師が価値を一方向的に教える」のではなく、「生徒が主体的に考え、議論」し、生徒自らが道徳的価値に気づき、教材を通して自らの学びを深めていく質的転換が求められている。また、先行き不透明な社会を生き抜くためには、「教科書を学ぶ」だけでなく、「教科書で学ぶ」ことを重視し、様々な見方や感じ方、考え方、生き方に触れながら自分との関わりの中で「考え、議論する道徳」を実現していくことが大切であると考え。

本校では校内研修では、「個別最適な学び」に視点を当てた研修に取り組んでいる。道徳科における「個別最適な学び」とは、「生徒一人一人が、導入段階で日常における道徳的問題を振り返り、個々の「学習課題」として認識させること。また、展開後段から終末において、多様に出された他者の思いや考えをもとに、道徳的諸価値について多面的・多角的に考え、これまでの価値観や経験などをもとに、自分の考えをより深めていくこと。」であると捉えた。

道徳科の授業の特性として、学習指導過程のすべての段階で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み込まれている。そのため、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向け、ICTを効果的に活用しながら授業改善を図っていくことが大切であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

「自ら学び、共に学び合う生徒を育成」するために、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した指導方法について、実践を通して明らかにする。

3 研究の内容

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた授業づくり

- ① 生徒が主体的に考える「学習課題」や疑問の共有
- ② 家族へのインタビューを通じた家庭との連携
- ③ ICTの効果的な活用

導入

提示資料



体験活動とつなげ、自分ごととして考えさせるため、グリーン作戦の写真を提示する。

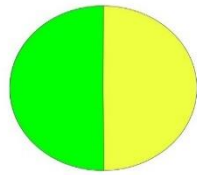
2年後、修学旅行で訪れる予定の観光名所の美しい景観について触れ、教材の内容に関連付け、問題意識を共有し、「考える必要性」を確認する。

③ICTの効果的な活用

展開

生徒のスライド

「社会の一員」として、ごみ箱を増やすことに賛成。反対。

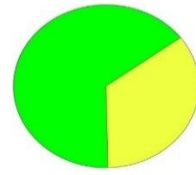


だれもが気持ちよく過ごせるよりよい社会にするために...

- ・ゴミは極力持ち帰る。
- ・影で支えていてくれる人の 頑張りを、忘れない。
- ・その行動で他の人がどう思うか考える
- ・問題に真剣に考え、行動する。

20

「社会の一員」として、ごみ箱を増やすことに賛成。反対。



だれもが気持ちよく過ごせるよりよい社会にするために...

よりよい社会にするためにゴミ箱を増やす増やさないじゃなく一人一人がゴミを捨てるよう心がけることが大切だと思った

22

事前に家庭で話し合ったり、意見をもらったりしたことを踏まえ、自分の考えをデジタル心情円で表現する。

めあてについて考えたことを自分の考えを入力する。他者の意見を閲覧しながら、振り返りにつなげる。

教師は一覧表示を通して、意図的指名を生かしながら生徒の思いを引き出し、広げ、展開した。



まとめ

生徒の振り返りシート

今日の学習を通して考えたこと、気づいたこと、感じたこと

ごみ箱を増やすこと、減らすこと、それぞれにメリット、デメリットがあることに気づきました。ごみ箱のことだけでなく、身の回りあるさまざまな問題は、いろいろな人の意見や気持ちを取り入れたら、みんなが快適に過ごせるというのをいかに考えて工夫したりして解決することが大切だと思いました。




今日の学習を通して考えたこと、気づいたこと、感じたこと

この学習を通してよりよい社会にするためゴミ箱を増やすだけではなくみんなの心がけが大切になってくると思いました。人が気づかない所で行動してみんなの感謝をたくさん感じていきたいです。

1 ねらい

ごみ箱の設置についての話し合いを通して、社会のルールやきまりに目を向け、だれもが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

2 展開

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される生徒の反応 [S]	○指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <p>S : 地域の方々とごみ拾いをした。 S : みんなでごみ袋を持って草むしりをした。</p> <p>S : ごみ箱を増やすことで街のごみは減るのか。 S : なぜごみ箱を増やす必要があるのか。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> (めあて) 「だれもが気持ちよく生活できる、よりよい社会にするため」に大切なことは何だろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 6月に実施したクリーン作戦の様子を想起させることで、これまでの生活体験を振り返り、自分との関わりで考え、問題意識を持つことができるようにする。 生徒の主体的な学びを促すため、事前に考えた互いの「問い」や「思い」を共有し、生徒の言葉を紡ぎながら「めあて」を設定していく。
<p>2 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ○あなたは投書の意見について、3人の意見やお家の人の意見を踏まえ、社会の一員として、ごみ箱を増やすことに「賛成」か「反対」か。また、その理由も考えましょう。 「賛成」(黄) 「反対」(緑) </div> <p>A  B  C </p> <p>S : 「賛成」 ごみは必ずごみ箱へ捨てることは常識。ポイ捨てが多いので、増やした方が良く。こうしたルールを守って生活することが大切。</p> <p>S : 「反対」 管理が大変。持ち歩くのが面倒。プラスチック製から紙製にし、エコを意識した取組が増えている。資源をムダにしないことやリサイクルの意識を持てば、増やす必要はないのでは。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中心発問で議論する時間を十分確保できるよう、生徒は事前に教材に触れていることを前提とするため、ここでは短時間で内容を確認する。 教材の様々な立場の意見に触れておくことで、多様な見方や考え方から、個の考えを広げたり深めたりした上で、授業に参加できるようにする。 スライドを活用し、①教師が容易に一人一人の心情を可視化することで、意図的指名につなげたり、②多様な考えを引き出すことで、次の中心発問につなげたりするための手立てとする。 ペアでスライドを見せ合い、考えの根拠を伝え合う対話的な活動を通して、生徒同士で互いに問い返し、考えを深める時間を確保する。 中心発問につなげるための意見共有の時間とするため、出された意見に共感し、認めながら、板書する程度にする。
<p>3 中心発問に対する考えを伝え合い、本時の道徳的価値を追求する。(25分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎ごみ箱を「増やすこと」「減らすこと」でどんなメリット・デメリットがあるだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考えに触れることができるよう、グループで、それぞれの視点について自分の考えを伝え合いながら、議論する。

S : ごみ箱があることで、ごみが溢れた状態になることを防ぐことができる。
ごみ箱がたくさん置かれている光景は見た目がよくない。ポイ捨てが減る。(?)

メリット

S : ごみ箱を減らすことで、一人一人のごみを持ち帰る意識が高まり、回収する人の手間が減る。
→ ポイ捨ては減るだろうか。

増やす

S : ごみ箱を増やすことで、減らそうという意識が減る。回収する人の手間が増えたり、美しい街の景観が損なわれたりする。
→ 人件費や回収費、税金がかかる。燃料の消費が激しく、環境問題に発展する。

減らす

S : ごみ箱を減らすことで、ポイ捨てが増える。(?) 場合によっては、長時間ごみを持ち歩くことになる。
→ ポイ捨てが増えると、犬や猫、カラスが掻き回すことで自然破壊につながる。

デメリット

S : 生活をしていると、どうしてもごみは出てしまうが、街中で自分が捨てたごみを回収する人がいる。自分の知らないうちに、片付けてくれている人がいる。ごみは自分が食べたり使ったりしたもの的一部分なので、その人の気持ちを考えると、責任を持ってごみの処分をするべきである。

S : ごみ箱を増やしたら、ごみを減らそうという意識が欠けてしまうと思う。観光地などでは美しい景観を保つために自分で出したごみを持ち帰るなどの徹底をしている。自然環境の破壊につながるという意識を持つべきだと思う。

S : 環境を整えることで過ごしやすくなると思うので、まずは教室のごみを拾う、自分のものではなくても落ちているごみを拾うなどの一人一人の意識が大切だと思う。みんなが過ごしやすい社会にするためには、自分のことだけでなく相手のことを考えた行動が欠かせないのではないかな。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、めあてについて再考する。(5分)

○だれもが気持ちよく生活するために、大切なことは何だろう。

S : 自分は社会の一員であるという自覚を持ち、互いが快適だと思う環境を整えること。
S : 集団生活は自分だけではなく、「誰かと共に生活している」ので、他の人のことを考えた生活を心がけること。
S : ルールやきまりを理解し、守って生活することや一人一人の意識。

- 今回の話題をより深い学びにつなげるため、事前に家庭で話し合われたことを踏まえた考えを積極的に伝えることを促す。
- 教師は机間巡視しながら「ねらいに沿った考え」をもとに、ファシリテーター役として、個や全体に対して問い返しや切り返しの発問をすることで、生徒が多面的・多角的に考えられるようにする。
- 道徳的実践力につなげるため、学校生活を通して落ちているごみに気づき、自ら落ちているごみを拾う姿や2学期の生活目標に「落ちているごみを拾う」という言葉を掲げていた生徒がいること、教室環境の美化に努めている生徒が増えてきたことを褒める。

◆評価の視点

- ①ごみ箱の設置に対する話し合いを通して、様々な考えがあることに気づき、多面的・多角的な視点から自分の考えを伝えている。
- ②よりよい社会の実現に向け、自分自身との関わりの中で考えている。
(方法：発言、話し合いの様子、振り返りの記述)

5 ねらいとする道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(5分)	・新たな気づきをもとに自己の「問い」や「めあて」に対する考えを深め、学びを自覚できるよう、振り返りシートの記入を指示する。
<p>〈振り返りの姿〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが気持ちよく過ごすためにルールがある。一人一人がマナーやきまりに対する意識を高め、相手のことを考えた行動が大切であると感じた。 ・自分の出したごみは責任を持ってごみ箱に捨てないといけないと思う。ポイ捨ては自然破壊につながるの、自然や社会全体のことを考えて、自分にできることを実践していきたい。 	

5 研究の成果と今後の課題

①生徒が主体的に考える「学習課題」や疑問の共有

生徒一人一人が教材への興味・関心を高め、道徳的な問題に気づくことで生まれる「問題意識」をもち、「学習課題」を設定することに視点を当て、実践した。道徳科においても、他の教科と同様に、生徒自らが学びたいという主体性を引き出し、学習の見通しをもたせることができた。一方で、多様な考えを引き出す中で、教師は把握した生徒の思いを、どの場面でどのような手順で提示していくかを工夫していくことが今後の課題としてあげられる。

②家族へのインタビューを通じた家庭との連携

授業参観等で道徳の授業を公開することが多いが、生徒の道徳性を育てていくためには、日常的に学校と家庭や地域との連携が欠かせないものであると考える。そこで、生徒が家族にインタビューを行い、家族の思いに触れることを通して、生徒同士の対話では生まれにくいような視点を授業での共有の場で生かすことができた。一方で、家庭の協力が得られない場合もあるため、継続した取組をしていくためには別の手立てを考えていく必要がある。

③ICTの効果的な活用

スライドを活用し、個の考えを共有することを通して、他者の考えを知る「協働的な学び」から、授業を通して得られた視点から自分の考えを深める「個別最適な学び」に生かすことができた。一方、ねらいに迫るための展開や生徒の考えを紡いでいく方法については、今後も研究を重ねていく必要がある。

6 参考文献

【教材資料・出典】

『新訂 新しい道徳1』東京書籍

【参考資料】

『子ども自ら気づき、深め、高める「特別の教科 道徳」の授業Ⅱ

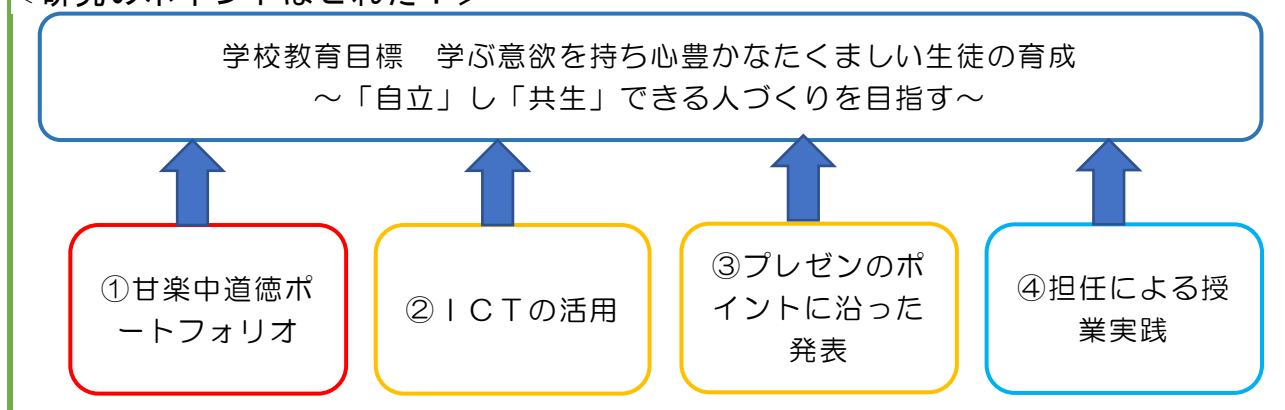
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した道徳授業の工夫
東研研究報告 No. 354』東京教育研究所 東京書籍 (2023)

学ぶ意欲を持ち心豊かなたくましい生徒の育成

—自身を振り返り、他者と交流し、担任による個人内評価を通して—

甘楽町立甘楽中学校 菊地奈津美

< 研究のポイントはこれだ！ >



1 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標のもとに道徳教育目標を掲げ、各教科、各学年の重点目標を道徳教育全体計画の中に示している。特に学校教育目標の副題である『自立』し『共生』できる人づくりを目指す」を達成するため、校内研修では「主体的対話的で深い学びによる確かな学力の育成—ICTの強みを生かしたプレゼン力の向上を目指して—」と題して研修を行っている。プレゼン力とは自分の考えを表現する方法であり、より相手に伝わりやすい工夫を取り入れることを指している。プレゼンをするときに共通するポイントを7つ生徒に示し、各教科で重点的に取り入れるポイントを選び、授業で実践している。

道徳教育が学校教育目標の達成に近づくための柱になる手段を考え実践し、またその成果と課題を考えることで来年度以降の甘楽中学校の道徳教育の充実を図ることとする。

2 研究のねらい

特に学校教育目標の副題である『自立』し『共生』できる人づくりを目指す」を達成するため、生徒自身が自分を振り返る機会を作り、他者と意見を伝え合う技能を伸ばし、より生徒一人一人を担任が評価することを通して、道徳教育の充実を図ることとする。

3 研究の内容

(1) 学校教育目標を達成するための道徳教育の取り組み

今年度の本校の道徳教育では、特に学校教育目標の副題である『自立』し『共生』できる人づくりを目指す」を達成するため、道徳の授業において①甘楽中道徳ポートフォリオの利用、②ICTの活用、③プレゼンのポイントに沿った発表、を実践した。

①甘楽中道徳ポートフォリオとは、毎時間の振り返りを一つの表に記述していくもので、今までの自分の考え方や自分自身の行動を振り返り、授業を通して考えたことや感じたことを記入する。

②ICTの活用とは、授業のテーマや発問をPPで提示したり、ワークシートに記入するのではなくロイロノートに記入したものを提出・共有したりすることである。

③プレゼンのポイントに沿った発表とは、校内研修で実践している共通のプレゼン力のポイントを道徳の授業の中にも取り入れることである。プレゼン力のポイントとは、①声の大きさや抑揚を工夫する②聞き手のことを常に意識する③話の目的・結論をはっきり決める④話の構成を論理的にシンプルにする⑤要点をあえて重複させる⑥資格情報で補足できる資料を作る⑦

例え話をうまく取り入れる、の7点存在する。

また、本校ではより個人内の変化を指導者が読み取り、評価に生かせるように④担任による授業実践、を優先している。道徳の教科化に伴って浸透した、一人の授業者が一つの内容項目を担当して実施クラスをローテーションする方法を本校は採用していない。授業は担任を基本とし、副担任が学期ごとに数回担当する程度にとどめる。

(2) 道徳研究部会との関連

本校の道徳教育は、令和5年度道徳研究部の研究テーマ「自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒を育む道徳教育の創出」とも関連が深い。①甘楽中道徳ポートフォリオは自分自身を見つめ直す機会になり、②のICTや③のプレゼンを意識した交流を重ねることで、他者の意見を受容したり自分の意見に取り入れられたりすることに繋がり、他者と共に生きる意識の向上に役立つと考えられる。

資料 1 甘楽中ポートフォリオの例

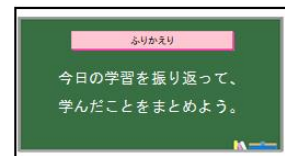
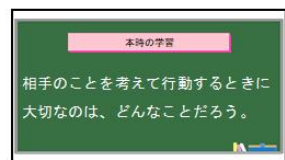
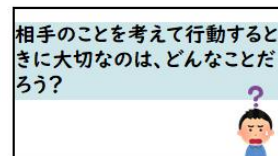
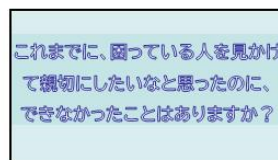
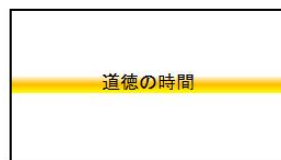
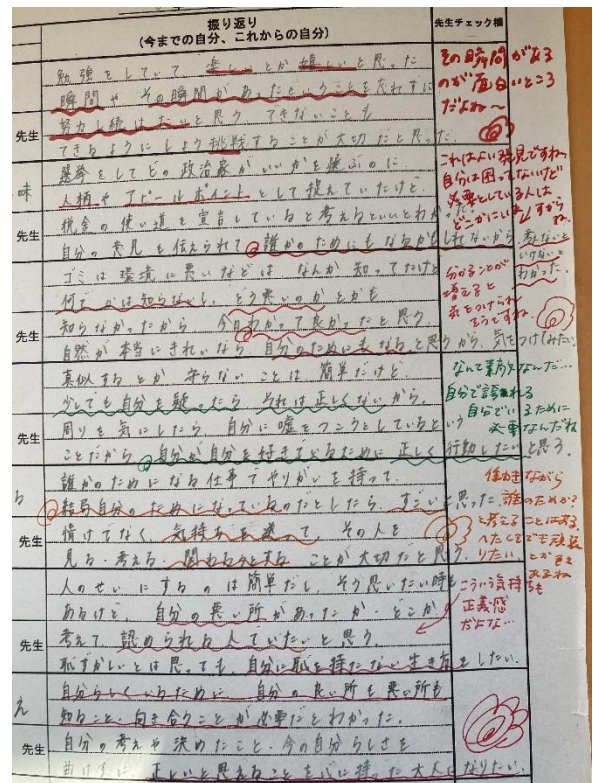
4 研究の実践とその成果

①甘楽中道徳ポートフォリオ

道徳のワークシート等を綴じるための道徳ファイルを各学年で準備し、ファイルの表紙の裏に印刷したポートフォリオを貼り付け、毎時間の振り返りを記入できるようにした。毎時間繰り返すことで生徒は今までの自分とこれからの自分を比べたり、授業を通して考えたことを記述したりする習慣が付き、自分で過去の振り返りを見返すこともできた。また先生チェック欄を利用して生徒の考えを受容したり深めたりできるような個人内評価を行うことができた。

②ICTの活用

図のようなPPを作成し、発問等を液晶テレビに映し出す方法を実施した。どのような価値項目について考えるのか見通しを立てたり、黒板とは別に示すことで板書するときは生徒の意見に集中したりすることができた。また、1学年にとっては道徳の授業の流れを理解することに役立った。



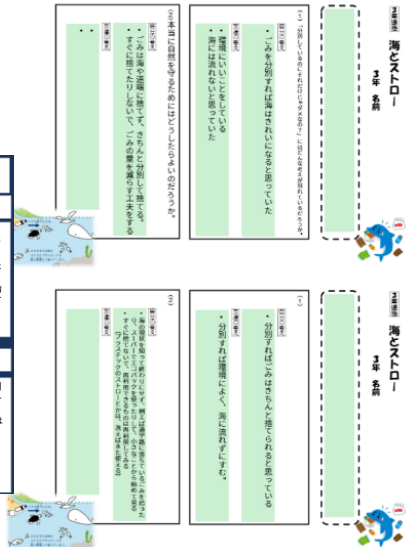
資料 2

PP (パワーポイント) の例

ワークシートをロイロノートで作成し、生徒は自分や他の人の意見をパソコンで入力し、共有する方法も実施された。意見を共有する際は、近くの座席の何人かだけではなく、クラス全員の意見に触れることができ、交流の機会は大きく広がった。また、比較的長い文章も容易に作成でき、じっくりと自分の考えをまとめて自分自身を見つめ直す際には効果的であるように見られた。

資料 3 ロイロノートで作成したワークシートの例

7月7日道徳 「感動のB選(補欠)引退試合」	7月7日道徳 「感動のB選(補欠)引退試合」
①動画を観て感じたこと・考えたこと 最後の大会に出ないという思いを乗り越えてみんなが活躍できるのはすごいと思った。最後の引退試合を「特別な日」と考えていたけれど、僕は最後に補欠部員の人たちが試合ができて喜ぶ姿に思った。最後に打ったホームランも三塁打もあの試合がなければなかったと思うととても悲しくなります。	①動画を観て感じたこと・考えたこと ベンチの人たちにもそれぞれの思いがあってその思いをレギュラーメンバーは背負ってやっているのだと思った。前まではレギュラーメンバーだった人でも落とされてしまって悔しい思いをしていたけれど、最後の大会ではレギュラーメンバーの人が応援してくれてその思いを背負って試合に臨んでいて、最後は悔しいながらも終わっていたのでよかったと思った。いつ程度をしようか分からないし、けがなどをしてしまったら練習ができなくなってしまうかもしれない。レギュラーメンバーから外されてしまったら本当に悔しいと思う。レギュラーメンバーにはなれなかったけど最後の大会で全力でやっていたので本当に良かったと思った。大会が終わった後も後輩の指導をしたり、サポートしたりしてあげてほしいと思った。
②最後の部活やこれからの意気込み ビデオで写っていた人たちがほとんど僕は立派ではないけれど、その人たちの頑張っている姿を真似て...最後の大会も頑張りたいです。 <i>みんな頑張るよ</i>	②最後の部活やこれからの意気込み 私もレギュラーメンバーではなくて3年の中で私だけ出られていなくてすごく悔しい思いがあっても、今回のこの動画を観ても夏の大会でもレギュラーメンバーの選ばれなかったら、レギュラーメンバーのサポートが必要をしっかりして私の思いを出している人たちに言って、知ってもらってその思いを背負って大会でやりたいと思った。まだ時間がああるので夏の大会まで自分のことを全力でやっつけてレギュラーメンバーには入れるように頑張りたい。



③プレゼンのポイントに沿った発表

プレゼンのポイントは常に提示しながら、特に道徳の授業では③話の目的・結論をはっきり決めること、を重視して授業を行った。意見を共有しようとする、自分の意見をただ相手に発表するだけにとどまることがあり、なぜ意見を共有するのかを明確にするためである。発問を示す際は、異なった意見をより多く知ることが必要なのか、より望ましい生き方を実現する方法は何かなどの議論する必要があるのか、もあわせて実施した。

④担任による授業実践

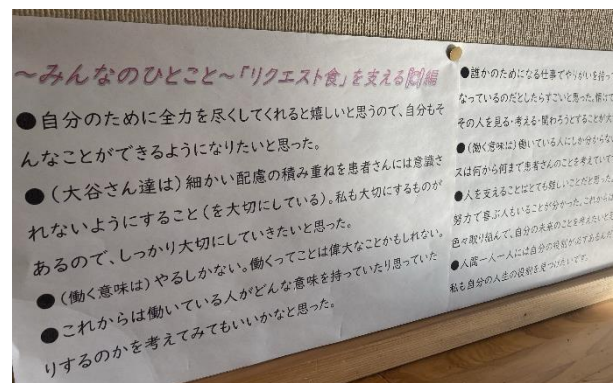
図の例では、1組担任(市川) 2組担任(橋爪) 3組担任(菊地)の授業実践を基本とし、副担任(高熊)が同じ価値項目の授業を週をまたいで1クラスずつ実施している。今年度2学期までの間に担任外は3年生で1回、2年生で0回、1年生で1回授業を担当した。

担任が授業を担当することで、個人内の変化を指導者が読み取り、評価に生かす目的はおおむね達成された。1時間の道徳の授業だけでなく、学校生活全般を通じた関わりや何時間かの積み重ねから変容を読み取ることができるからである。また、生徒本人に助言したり、学級通信やクラス内の掲示物等でクラスメイトに紹介したりすることによって、互いの意見を認め合う学級づくりの一端を担った。

資料 4 指導計画の一部

	1組	2組	3組
9/22	高熊 ◎がんばれおまえ。	橋爪 ⑤「リクエスト食」を支える。	菊地 ⑤「リクエスト食」を支える。
9/29	市川 ⑤「リクエスト食」を支える。	高熊 ◎がんばれおまえ。	菊地 ⑦小さいこと。
10/6	市川 ⑦小さいこと。	橋爪 ⑦小さいこと。	高熊 ◎がんばれおまえ。

資料 5 道徳の授業後の掲示物



5 研究の振り返りと今後の課題

(1) 甘楽中職員による実践の振り返り

本校の道徳教育を評価するため、教職員に向けて Google フォームを利用してアンケート調査を

行った。特に④担任による授業実践について評価する項目を含めた全5問の質問に対して、20人の教職員のうち、15人からの回答を得られた。

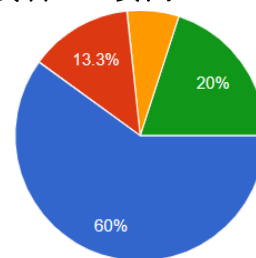
質問1「ご自身の立場についてお答えください。」に対しては、担任、副担任、学年主任、学年外の4つの選択肢があり、担任9名、副担任2名、学年主任1名、学年外3名の回答があった。

質問2「授業をされた方はお答えください。1回の授業に対し、準備期間はどのくらい必要になりましたか。」に対しては、授業を行った11名から回答があり、30分以下と回答した5名が最も多かった。

質問3「現在の授業ローテーションに対してどのようにお考えでしょうか。4段階でお答えください。」に対しては、選択肢1と2の「満足していない」と「やや満足していない」を合わせた回答は7名、選択肢3と4の「やや満足している」「満足している」を合わせた回答は8名あった。ただし、質問1の立場と対応させると授業ローテーションの中心となる担任の6名が「満足していない」「やや満足していない」と答えた。

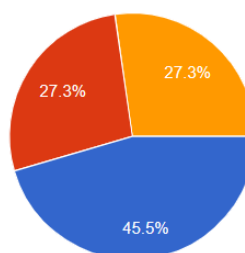
質問4「何か道德に関することで、困っていることがあればお書きください。」と質問5「甘楽中で実践したい道德等、何か要望があればお書きください。」については自由記述とし、それぞれ4名、計8つの回答を得た。質問4について記述されたものの中には、「価値に対する答え方が分かっている生徒が多く、価値について、多面的、多角的に考えさせることが難しい。」「授業の組み立て、上手な意見の交流の仕方がわからない」といった意見があり、これは担任がそれぞれ教材研究や内容項目の理解を行っているため、授業者自身の研修や経験に依存している状況を示している。また、『教科書』にしばられてしまい、生徒の実態に沿った教材を取り上げにくくなってしまった。」「そもそも言葉が難しい教材文は、内容理解に時間をかけることになり、価値項目についての理解や議論を深めるための時間が少なくなってしまうため、ある程度生徒にわかりやすい文章がいいなと思います。(教科書について)」のように、学校行事や学年の実態に合わせて作成された年間指導計画であってもクラス内の実態に対応できていない様子が見えた。質問5への回答には「引き続きローテーションでやっていきたいです。」「時には教科書以外のいろいろな資料を活用してみたい」「もう少し、裁量で使えるような工夫ができると良いなと思っています。」といった意見があり、クラス担任が道德の授業を行う利点を理解し実行しようとしても、最大限に良さを発揮できていない様子があった。

資料 6 質問 1



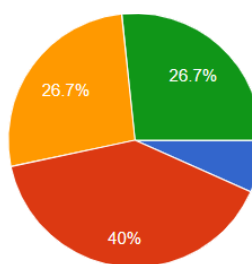
- 担任
- 副担任
- 学年主任
- 学年外

資料 7 質問 2



- 30分以下
- 1時間程度
- 1~2時間
- 2時間以上

資料 8 質問 3



- 1 満足していない
- 2 あまり満足していない
- 3 やや満足している
- 4 満足している

資料 9 質問 1 と質問 3

ご自身の立場について	現在の授業ローテーションに
担任	1 満足していない
学年主任	2 あまり満足していない
担任	2 あまり満足していない
担任	2 あまり満足していない
担任	2 あまり満足していない
担任	2 あまり満足していない
担任	2 あまり満足していない
学年外	3 やや満足している
担任	3 やや満足している
担任	3 やや満足している
副担任	3 やや満足している
学年外	4 満足している
学年外	4 満足している
担任	4 満足している
副担任	4 満足している

(2) 今後の課題

生徒の実態に合わせた道徳教育の重点目標の見直しを進めていくと同時に、学校または地域全体で道徳教育を推進していく体制づくりが必要と考える。文部科学省が示した道徳推進教師の役割には、「道徳教育の指導計画の作成に関すること」「道徳の時間の充実と指導体制に関すること」「道徳教育の研修の充実に関すること」が挙げられており、生徒の実態に合わせた指導計画の作成や授業者に対する授業方法の提案をしていきたい。その際、校内研修部と協力し、学校全体で研修する機会が増えると効果が向上するのではないかと考える。また、先述したアンケート調査の回答には「3年間を見通した計画的、発展的な指導を重視する学校及び地域の実態に応じて、3年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を図った指導を推進していく。甘楽中(町)として、特に重点を置く内容項目は何かを研究していく。」という意見があった。内容項目をより深く理解し、「学ぶ意欲を持ち心豊かなたくましい生徒」を育てるためにどのように取り組んでいくか学校全体で検討していきたいと考える。

参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』教育出版（平成29年）

参考資料

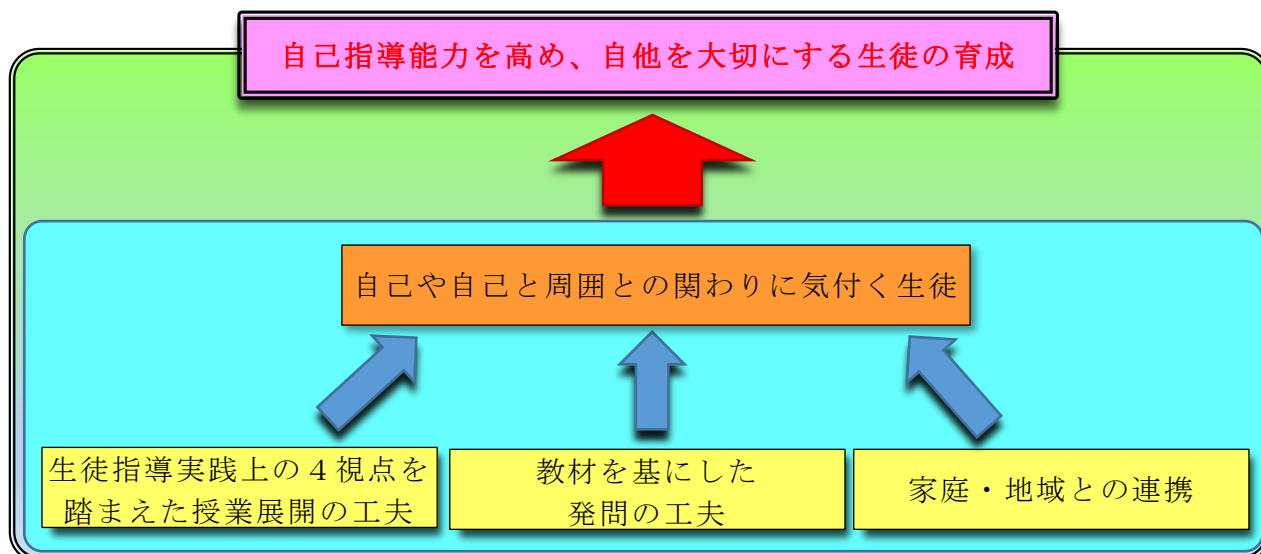
文部科学省 HP Q&A 12. 道徳に関すること [Q&A：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)

前橋市立富士見中学校 関洋輔教諭『道徳科の授業の質的向上を目指した道徳教育推進教師の取組』 [seki2.pdf \(city.maebashi.gunma.jp\)](https://www.city.maebashi.gunma.jp/eki2.pdf)

自己指導能力を高め、自他を大切にする生徒の育成

— 家庭、地域と一体となった道徳科教育の推進を通して —

藤岡市立北中学校 新井 敏弘



1 研究主題設定の理由

本校は今年度より藤岡市教育委員会指定の人権教育実践推進校となり、生徒指導提要に示された生徒指導実践上の4つの視点（ア 自己存在感の感受 イ 共感的な人間関係の育成 ウ 自己決定の場の提供 エ 安全・安心な風土の醸成）を踏まえた指導を基盤として自己指導能力を高めることを目指している。

道徳教育においても生徒が自己や周囲にとってより適切な行動を自ら考えたり、自ら判断したりしながら主体的に行動できる資質能力を高めることを目指していきたいと考え、本題材を設定した。

2 研究のねらい

生徒指導実践上の4視点を踏まえ、発問の工夫や保護者、地域との連携をはかることにより、自己指導能力を育成するための道徳教育の充実をはかる。

3 研究の内容

（1）4視点を踏まえた授業展開の工夫

- ①数直線の活用を通じた自己決定の場の設定
- ②ネームプレートの活用
- ③共感的人間関係の育成
- ④安全・安心な風土の醸成

（2）教材を基にした発問の工夫

- ①心情の表現方法における発問の工夫
- ②揺さぶる発問の工夫

（3）保護者・地域との連携

- ①アンケートの活用
- ②コミュニティ・スクールの活用

（4）授業の実践

4 実践の概要

(1) 生徒指導実践上の4視点を踏まえた授業展開の工夫

生徒指導の実践上の4視点を踏まえ、まず自己をみつめ、自己及び周囲にとって適切な行動について自ら判断する力を向上させていきたいと考え、「A主として自分自身に関すること」である「(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」の道德性を養うことをねらいとし、教材を選定した。

また、教材は今後の汎用性を考慮し、教科書から選び、「裏庭での出来事」(光村図書)とした。

①数直線の活用を通じた自己決定の場の設定

数直線上に自分の考えに合った位置に貼らせることにより、自己決定の場を与える。

②ネームプレートの活用

ネームプレートが黒板に貼られることにより、自己存在感を感受させる。

③共感的人間関係の育成

自分の考えを、自身と対話しながら見いだすだけでなく、ペアでの対話やクラス全体での対話等を通して伝え合うことで、共感的な人間関係を育成する。

④安全・安心な風土の醸成

生徒の対話のなかで、どのような発言も教師が受け入れることで、発言することへの抵抗や不安感をなくしていく。

(2) 教材を基にした発問の工夫

主たる登場人物である「健」の言動、行動に着目し、裏庭に先生が駆けつけた際にガラスを割ってしまったことを言えなかった気持ちや、翌日になって職員室へ「僕は行く」と言った際の「健」の思いについて探ることで、誰でも弱い心をもっているが、それをどのような気持ちで乗り越えるかについて考えさせたい。

上記発問にあたっては、事前に自身の体験等から「いけない」と分かっているでもそのままにしてしまった経験を想起させることで、誰もが自身の思いとは別の行動をとってしまうことがあり得ることを気付かせたい。

①心情の表現方法における発問の工夫

「健」の思いを追っていきながら、「もし自分なら」と考えさせることを通して、自分事として捉えることもねらっていきたい。そこで、「(先生のところへ)行ける率は□%」とパーセンテージで答えさせることで、自分の考え(立場)が何%であるか考えることができるようにする。さらに、自分の中の主要な考えと、揺れ動くもう一方の考えを表出できるようにすることで、より多面的、多角的な考えを表出させ、それを生徒たちに交流させたい。

②揺さぶる発問の工夫

①の発問を受けて、「行ける率」が高い生徒には、「本当に行けるか」「友だちの雄一は止めているんだよ」などと言葉がけを行う。また、「行ける率」が低い生徒には、「後でばれたらもっと大変なことになるかも知れないよ」「部活や英語も身が入らないくらい悩んでいるんだよ」などと問うことで、より深い考えが表出されるような機会を設ける。

(3) 家庭・地域との連携

①アンケートの活用

まず、1学年の保護者(生徒数158名)にアンケートの趣旨を伝え、協力を依頼した。回答形式は紙媒体のものと、オンラインアンケートアプリを利用した形式とを両方配付することで、多忙な中でもより協力しやすい方を選択して回答いただけるようにした。

具体的には、導入の場面(Q1)と、自分事として捉え、「行ける率」を向上するためにどうすればよいか考えさせる場面(Q2)において、保護者の意見を参考にできるように

した。

- Q1 家庭内や社会生活の中で「いけない」「まずい」と思っている、ついそのままにしてしまったことはありますか？（学生時代の思い出の中からでも結構です。）教えてください。
- Q2 自分の信念をもって生活していても、つい置かれた状況や集団心理などで自分の考えとは違った行動をとってしまうことがあるのが人間だと思います。そのような中で、あなたが自分の行動に責任をもつために大切にしていることはどのようなことですか。教えてください。

配付した結果、総数 58 名の方より回答をいただいた。「Q1」については中学生・高校生時代の出来事が多かったが、最近の出来事と思われる経験を記入された方もいた。「Q2」については「悪口を言わない」「毎日明るく過ごす」など多様に及んだ。それらの中から内容項目に照らし合わせて参考になるとと思われる回答を精選し、授業の中で紹介しようと考えた。

②コミュニティ・スクールの活用

地域の方にもアンケートをとった。本校では学校運営協議会(名称「ぼ☆ら☆り☆す」)が設置されており、地域の教育力を活用した教育活動の充実に重点を置き推進している。今回新たな試みとして、地域住民の方々にも内容項目や住民としての学校への願いを聞きたいと考えた。

今回は試験的な試みとして「ぼ☆ら☆り☆す」の役員さんにアンケートの趣旨を伝え、協力を依頼した。ほとんどが携帯端末向け無料通信アプリを活用しての依頼となった。

- Q1 自分の信念をもって生活していても、つい置かれた状況や集団心理などで自分の考えとは違った行動をとってしまうことがあるのが人間だと思います。そのような中で、あなたが自分の行動に責任をもつために大切にしていることはどのようなことですか。教えてください。
- Q2 「責任感」という面で、北中生に今のうちに身につけてほしいと思うことがあれば教えてください。

質問事項については、保護者のアンケートと同様に、自分事として捉え、「行ける率」を向上するためにどうすればよいか考えさせる場面(Q1)とともに、「地域住民の北中生への願い」として記述していただいた。

結果、6名の方から回答をいただくことができた。回答数は少ないものの、一つひとつに懇切丁寧に回答いただいた。

Q1 については、保護者と同様な意見が見られたが、「自分がやるべきと思ったことはためらわずに実行する。嫌なことほどすぐに実行すると後が楽になる」「初心に戻る。(何のためにこれをやっている、なんのためにここにいる)」など、幾多の人生経験からの含蓄ある回答が目立った。

Q2 については、本校の学校教育目標を実現するために長年あるスローガンの一つである「みそあじ」(み 身だしなみ, そ 掃除, あ 挨拶, じ 時間を守る)が周知されており、「『みそあじ』を今後も大切にしていってほしい」「『みそあじ』は北中の最強アイテム」などの声をいただいた。また、「失敗を恐れずにチャレンジしてほしい」「わからないことはわからないと伝え、質問することを大事に」など、多様に及んだ。主なものを授業中に伝え、地域から望まれる北中生の姿として生徒たちの今後に生かす参考になればと考えた。

(4) 授業の実践

①主題名 自主、自立、自由と責任

教材名 友達関係を見直す 「裏庭での出来事」

(「きみが いちばん ひかるとき」光村図書)

②ねらい

友達の判断に流された上に、自らの失敗を責任転嫁してしまったことに悩む生徒の姿を通して、自分の行動に責任をもつことについて考えながら、自ら考え、行動したことに責任をもつための判断力を育てる。



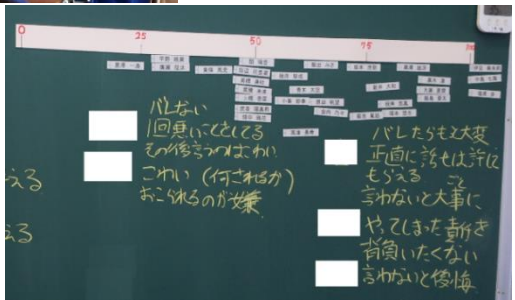
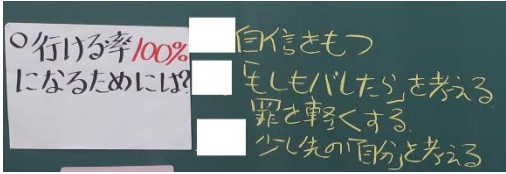
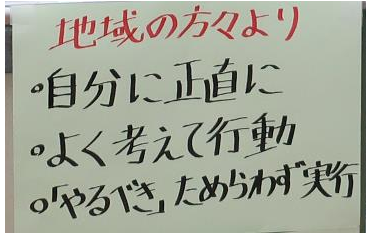
③教材について（あらすじ）

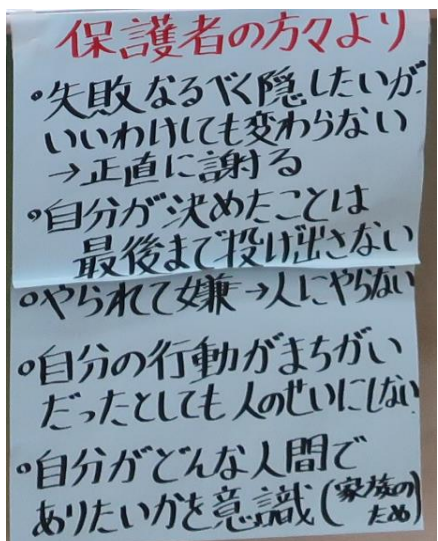
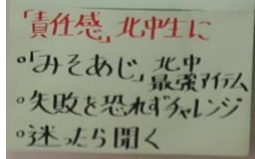
昼休みに先輩に邪魔されないように、裏庭でサッカーをしようと大輔、雄一から健は誘われる。鳥の巣を狙う猫に気づいて雄一はボールを投げ、物置の窓ガラスを割ってしまう。雄一が先生を呼びに行く間に、健と大輔は遊び始めてしまい、健がさらにもう1枚窓ガラスを割ってしまう。雄一は先生に2枚の窓ガラスを割ったことを謝罪した形になってしまった。そのことに悩んだ健は、翌日本当のことを報告しようと職員室に向かう。大輔もその後を追いかけていった。

④本時の展開

<p>主な学習活動 (○発問◎中心発問◇補助発問☆保護者 ★地域●揺さぶり\$生徒の反応)</p>	<p>時間</p>	<p>指導上の留意点 ◎連携 下線__人権に関わる視点 ①自己決定②自己存在感③共感的人間関係④ 安全・安心な風土の醸成</p>
<p>1 自分の行動で無責任になった経験を振り返り、本時で考えることを意識づける。</p> <div data-bbox="177 875 719 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【これまで】○家や学校生活の中で「いけない」「まずい」と思っているままにしてしまったことはあるか。</p> </div> <p>\$頼まれた手伝いをやらなかった。 \$給食当番なのに食缶を取りに行かなかった。 ☆ドリルやワークなどの答えを写してしまった。 ☆友だちが悪口を言っていて、自分はそう思っていなかったのに否定せずに受け入れてしまったことがある。 ☆自転車のきまりを…</p>	<p>5</p>	<p>・誰でも「分かっているけどできない」ときがあることを知ることで自分のマイナスな部分にも目をそらさず素直に本時の学習に向かえるようにする。 ・クラス内で対話し、発言した生徒のネームプレートを黒板に貼り拍手をすることで、言い辛さもあつただろうに伝えたことを称え、安心して考えを言える雰囲気を作れるようにする。②④ ◎生徒の発表後には、家族の方から聞いたアンケート結果を紹介する。</p> <div data-bbox="1150 1155 1433 1357" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>保護者の方より ドリルワークの答え 悪口・ポイ捨て ウソ・自転車…</p> </div>
<p>○健は、どうして松尾先生が来たときに、自分もガラスを割ったことを言わなかったのだろう。 \$先生に怒られなくなかったから。 \$正直に言うことが怖かったから。</p> <div data-bbox="344 1626 708 1787" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>	<p>2</p>	<p>・事前に資料を読む機会を設けることで、考える時間を十分確保する。① ・簡単なあらすじを伝え、3人の言動を整理することで、責任を逃れようとした健の弱さを捉えさせる。</p> <div data-bbox="971 1615 1235 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>
<p>◎健は、翌日はどんな思いから、「僕は行く」と言ったのだろう。 \$このままずっと言わなかったら、後悔すると思ったから。 \$先に言った雄一に申し訳ないと思ったから。</p>	<p>13</p>	<p>・個人で考え、ペアで伝え合う活動を行いクラス内で対話させることで、発言に慣れ積極的に伝え合えるようにする。 ①③</p> <div data-bbox="1161 1883 1417 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>

めあて 自分の行動に責任をもつために必要なことは何だろう。

<p>◇健は昨日の自分をどう見ているのだろう。 S 怒られるのは嫌だった。でも自分のけじめとして今日は言おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 偏った意見のみ出た場合には、「健は昨日の自分をどう見ているのだろう」など補助発問をすることで多面的・多角的に考えられるようにする。
<p>3 自分に向き合う ○もしあなたが健だったら、先生のところへ行けるだろうか。（「行ける率」は何%か。）</p>  <p>行ける率が高い理由 S ばれたら大変なことになる。正直に話せば許してもらえと思う S 言わないままだと後悔する。 ●本真に行ける？ ●雄一に止められているのに行くの？</p> <p>行ける率が低い理由 S 一回悪いことをしているのにその後言うのは怖い。 S 怒られるのが嫌だから。 S きっとばれないと思うから。 ●後でばれたらもっと大変なことになるかも知れないよ？ ●大好きな部活や英語も身が入らないくらい悩んでいるんだよ？</p>	<p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> 主人公を自身に置き換えることで、物語ではなく、自分事として捉えられるようにする。 「行ける」「行けない」で尋ねるのではなく、パーセンテージで答え、その理由を考えさせることで、一人ひとりの本音をより引き出せるようにする。 ネームプレートを、自分の考えに合った数直線上の位置に貼ることで、<u>自己決定をさせる</u>。① <u>個人で考え、自由に意見交流させる活動を行った後クラス内で発表させることで、発言に慣れ自信をもって伝えられるようにする</u>。①③ 生徒をゆさぶる質問を投げかけることで、より深い考えが表出されるような機会を設ける。また、【まとめ】につなげるようにする。  
<p>【まとめ】自分の行動に責任をもつために必要なことは何だろう。</p>	
<p>4 行動に責任をもつことについて改めて考える。 ○「行ける率 100%」になるためにはどんなことが必要だろう。</p>  <p>S 自分に自信をもって行動することが大事。 S 「もしもばれたら」を考える。 S 少し先（未来）の「自分」を考える。 ☆失敗はなるべく隠したいと思うが、言い訳をしても事実は変わらないので、正直に謝ることが大切。 ☆自分が決めたことは最後まで投げ出さな</p>	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えついた生徒からクラス内で発表させ、他の生徒のヒントになるようにする。また、<u>どのような発言でも受け入れることで、全体の場での発言に抵抗なく発表できるようにする</u>。④ ペアやグループになり考えたり、◎保護者や地域の方の意見を紹介したりして、考える参考になるようにする。 ◎生徒の発表後に保護者や地域の方の意見を紹介することで、【このあとは】のヒントになるようにする。 

<p>いことが大切。 ☆人にやられて嫌なことは人にやらない。 ☆たとえ自分のとった行動が間違이었다としても人のせいにしない。 ☆自分がどんな人間でありたいかを意識することが、結局家族を守ることにもつながる。 ★自分に正直にすることが大切。 ★自分で「やるべき」と思ったら、ためらわずに実行することが大切。 ★今起きていることを冷静に考える。</p>	
<p>【このあとは】本時の授業を振り返り、自分の行動に責任をもつために今後実行したいことについて考える。</p>	
<p>5 授業を通して考えたことをシートにまとめ、自己評価シートを記入する。 ○「今日考えたこと、思ったこと」と一緒に「今後の自分に生かしたいこと」を一言ずつまとめよう。</p>	<p>3 ◎地域の方の意見を紹介することで、中学生として何を望まれているかを知り、心がけたいことの参考になるようにする。</p>  <p>・短時間で一言記入できるよう、メモ書き程度でよいことを伝える。①</p>

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

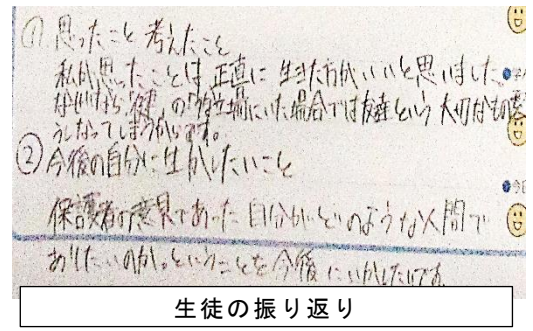
授業後の振り返りを見たところ、「①今日の授業で思ったこと・考えたこと」の欄では「責任」をキーワードにして書いた生徒が大部分だった。特に、「保護者や地域の方々の意見を聞いて…」などと、家庭や地域の方からの意見を参考にした生徒が多かった。

「②今後の自分に生かしたいこと」においても、地域の方から望まれている姿を参考に自分の思いを表現する生徒が目立った。以上のことから、クラス内の考えだけでなく、家庭や地域の人々の意見を参考に自分の考えがさらに広がり、より多面的な意見を構築できたと言える。

(2) 課題

アンケートの回答では、内容項目に関わる回答から逸脱したものも少なくなかった。事前にどのような事を考える授業を行うか、どこまでお知らせするか、また、質問事項をどのようにすればよいかを課題である。

また、今回、家庭や地域との連携を道徳科においてもはかることができたので、校外での道徳意識の高まりも期待できる。この機会を生かし、生徒の「今後の自分」につながるように、協力のお礼とともに「道徳通信」等で知らせ、是非実践していけるよう合わせて呼びかけていきたい。さらには、今後も家庭・地域と連携した取組について、より効果的になるよう模索していきたい。



生徒の振り返り